

令和2年8月20日
於
府中市立教育センター

令和2年第8回

府中市教育委員会定例会議事録

府中市教育委員会

令和2年第8回府中市教育委員会定例会議事録

- 1 開 会 令和2年8月20日(木)
午後2時00分
閉 会 令和2年8月20日(木)
午後5時27分
- 2 議事録署名員
教育長 浅 沼 昭 夫
委 員 平 原 保
- 3 出席者
教育長 浅 沼 昭 夫 委 員 日 野 佳 昭
委 員 平 原 保 委 員 新 島 香
委 員 増 渕 達 夫
- 4 欠席者
なし
- 5 出席説明員
教育部長 赤 岩 直 文化スポーツ部長 関 根 滋
教育部副参事兼指導室長 文化生涯学習課長 二 村 善 久
並 木 茂 男 ふるさと文化財課長 江 口 桂
教育総務課長 矢ヶ崎 幸 夫 市史編纂担当主幹 英 太 郎
教育総務課長補佐 矢 島 彩 子
学校施設課長 町 井 香
学校施設課長補佐 遠 藤 勝 久
学務保健課長 佐 伯 富 丈
給食センター所長 谷 本 耕 一
指導室主幹 目 黒 昌 大
統括指導主事 吉 田 周 平
統括指導主事 菅 原 尚 志
指導主事 進 藤 智 洋
指導主事 蓮 沼 喜 春
- 6 教育委員会事務局出席者
教育総務課係長 元 村 考 呂
教育総務課事務職員 森 菜 摘

議 事 日 程

第1 議事録署名員指名について

第2 会期決定について

第3 議 案

第4 1号議案

令和2年度一般会計補正予算（第5号）に対する意見の聴取について

第4 2号議案

令和3年度使用教科用図書採択について

第4 請 願

請願第1号

集団的自衛権・交戦権等まで「自由・権利の記述箇所数」にカウントする反学問的な都教委作成「中学校教科書調査研究資料」の公民の調査・研究の在り方を抜本的に是正させるよう求めると共に、増渕達夫氏は政治的中立性から問題あるので公民・歴史等の採択から排除にするよう求める請願

第5 報告・連絡

(1) 府中市学校施設大規模改修整備方針の策定について

(2) 市史刊行物『市史編さんだより』第9号の発行について

第6 その他

第7 教育長報告

第8 教育委員報告

午後2時00分開会

○教育長（浅沼昭夫君） ただいまより、令和2年第8回府中市教育委員会定例会を開会いたします。

_____ ◇ _____

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第1、議事録署名員指名につきまして、本日の議事録署名員は、私のほか平原委員にお願いいたします。

_____ ◇ _____

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第2、会期の決定でございますが、会期は本日1日といたします。

_____ ◇ _____

◎傍聴許可

○教育長（浅沼昭夫君） 傍聴希望者がおりますので、許可してよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） 本日は議案が2件ございます。このうち、第42号議案については、説明及び審議が長時間にわたることが予想されるため、議事進行の都合上、議事日程の最後に審議したいと思いますけれどもいかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、日程第8、教育委員報告の後、定例会を中断し、休憩の後に、定例会を再開して、第42号議案の審議をいたします。

傍聴の皆様方に申しあげます。

府中市教育委員会傍聴人規則により審議内容への発言や、議事進行の妨げとなる行為及び会話などは禁止されています。また、議場内における録音及び写真撮影等をご遠慮願います。

傍聴中は新型コロナウイルス感染症対策のため、マスクの着用をお願いします。また、静粛にいただき、係員の指示に従い、会議がスムーズに進行できますよう、ご協力をお願いいたします。

なお、本日の第41号議案については、手続未了のため、資料を一部省略して配布しております。

_____ ◇ _____

◎第41号議案 令和2年度一般会計補正予算（第5号）に対する意見の聴取について

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第3、第41号議案の審議に入ります。議案の朗読をお願いします。

（事務局朗読）

○教育長（浅沼昭夫君） 説明をお願いします。

○教育総務課長補佐（矢島彩子君） それでは第41号議案「令和2年度一般会計補正予算（第5号）に対する意見の聴取」について、ご説明いたします。

この議案は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づき、当該補正予算案を本年第3回市議会定例会に提案するに当たり、市長から教育長に本件の依頼がございましたのでお諮りするものでございます。ご審議いただいた内容を踏まえ、市長からの依頼に対する回答を8月21日までに行うこととなっておりますので、よろしくお願ひいた

します。

なお、これからご説明する予算額につきまして、教育部各課の歳入予算見積額及び歳出予算要求額をまとめたもので、確定額ではないことをご承知おきください。

それでは、初めに歳入予算でございますが、A3判の資料「令和2年度教育関係歳入予算案（9月補正）」をご覧ください。国庫支出金及び都支出金に対して増額補正を行うものとなっております。内容は、国庫支出金における公立学校情報通信ネットワーク環境施設整備費補助金、公立学校情報機器整備費補助金及び学校保健特別対策事業費補助金。都支出金における公立学校情報通信ネットワーク環境整備支援事業補助金、公立学校情報機器整備支援事業補助金及び公立学校新型コロナウイルス感染症対策支援事業補助金となっております。増減理由につきましては記載のとおりでございます。

次に、歳出予算でございますが、歳入の裏面「令和2年度教育関係歳出予算案（9月補正）」をご覧ください。教育総務費、小学校費、中学校費、学校給食費に対して補正を行うものとなっております。いずれも増額補正を行うものでございますが、その理由につきましては記載のとおりでございます。以上で説明を終わらせていただきます。よろしくご審議くださいますよう、よろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。

○委員（増淵達夫君） 1点確認をしたいのですが、表面のところでは小中学校タブレット端末の導入に伴う、とありますけれども、これによって全ての児童・生徒にこのタブレット端末が与えられるようになると考えてよろしいのでしょうか。それを確認させてください。

○指導室主幹（目黒昌大君） 全ての児童・生徒に1人1台のタブレット端末が調達できる見込みでございます。

○教育長（浅沼昭夫君） よろしいですか。ほかにご質問ございますか。新島委員、どうぞ。

○委員（新島 香君） 1学期のうちにルーターの貸出しが始まっておりますが、そのルーターの予算はこちら9月補正には入っていないということではよろしいのでしょうか。教えてください。

○指導室主幹（目黒昌大君） おっしゃるとおり、モバイルルーターの貸出しの予算は6月補正において補正を組んだものでございまして、この補正自体も東京都の100%補助事業として補正をしたものでございますので、貸出し期間も7月から年内12月末までということで予定してございます。したがって、今回の補正予算にはモバイルルーターの経費は計上してございません。

○教育長（浅沼昭夫君） よろしいですか。ほかにかがでしょうか。

それではご意見はございますか。新島委員、どうぞ。

○委員（新島 香君） こちらの予算には入っていないということでしたので、ルーター、来年1月以降も貸出しが必要なご家庭に関しては、それがかなうようなことを検討いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 要望ということではよろしいですか。

○委員（新島 香君） はい。

○教育長（浅沼昭夫君） ほかにご意見いかがでしょうか。よろしいですか。

それではお諮りをします。第41号議案「令和2年度一般会計補正予算（第5号）」に対す

る意見の聴取について」、決定することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) 全員異議なしですので、原案どおり決定いたします。



◎請願第1号 集団的自衛権・交戦権等まで『自由・権利の記述箇所数』にカウントする反学問的な都教委作成『中学校教科書調査研究資料』の公民の調査・研究の在り方を抜本的に是正させるよう求めると共に、増淵達夫氏は政治的中立性から問題あるので公民・歴史等の採択から排除にするよう求める請願

○教育長(浅沼昭夫君) それでは日程第4、請願第1号の審議に入ります。

審議の前に傍聴者の皆様方に申しあげます。請願に関する資料の個人情報記載されている部分については、削除して配付しております。

請願の朗読をお願いいたします。

(事務局朗読)

○教育長(浅沼昭夫君) 請願人は口頭意見陳述の場を設けるように要望されておりますが、いかがいたしますか。どうぞ、日野委員。

○委員(日野佳昭君) 請願の内容につきましては、原本を事前に拝読してきました。非常に具体的に意見を述べられていますので、口頭陳述の必要はないと考えます。

○教育長(浅沼昭夫君) それでは直ちに審議に入ります。何かご質問ございますか。

○委員(新島香君) 今回の請願6項目のうち5項目については、東京都が作成した資料について、府中市が都にその意図を確認したり、また、資料の内容を是正するよう働きかけてほしいということだと思っておりますけれども、このような請願は審議の対象となるものなのでしょうか。お願いします。

○統括指導主事(吉田周平君) 請願にある「教科書調査研究資料」は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第10条及び第11条の規定に基づき、東京都教育委員会が東京都教科用図書選定審議会の答申を受けて、東京都教育委員会の権限と責任において作成し、都内各区市町村教育委員会等の教科書採択権者への「指導、助言又は援助」の一環として配布しているものと認識しております。

本市といたしましても、本資料は、あくまでも教科書採択の参考資料の1つと考えております。したがって、参考資料として取り扱う本資料の内容につきまして、是正の申入れを東京都教育委員会に対して行うことが適当であるかどうかをご議論いただければと考えております。

○教育長(浅沼昭夫君) ほかにご質問ございますか。

○委員(平原保君) 念のため確認なのですが、教育委員の退席を求めるとありますが、教育委員が議事に参加できない場合は、どのような場合がありますか。

○教育総務課長補佐(矢島彩子君) いただいたご質問ですが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第6項の規定に「教育委員会の教育長及び委員は、自己、配偶者若しくは三親等以内の親族の一身上に関する事件又は自己若しくはこれらの者の従事する業務に直接の利害関係のある事件については、その議事に参与することができない。ただし、教育委員会の同意があるときは、会議に出席し、発言することができる」とあります。

直近では、学校医等の委嘱の議案の審議の際に、日野委員が従事する業務に直接の利害関係があるということでご退席いただいた事例がございます。今回の中学校教科書採択は、増淵委員が現在従事している業務と直接の利害関係があるとは言い難いので、事務局としては先ほど申しあげました規定に該当するとは考えておりません。

○教育長（浅沼昭夫君） ほかにご意見ございますか。よろしいですか。

それでは、採択のご意見はございますか。よろしいですか。

ご意見がないようですので、不採択としてよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、請願第1号「集团的自衛権・交戦権等まで『自由・権利の記述箇所数』にカウントする反学問的な都教委作成『中学校教科書調査研究資料』の公民の調査・研究の在り方を抜本的に是正させるよう求めると共に、増淵達夫氏は政治的中立性から問題あるので公民・歴史等の採択から排除にするよう求める請願」は、不採択といたします。



◎府中市学校施設大規模改修整備方針の策定について

○教育長（浅沼昭夫君） それでは日程第5、報告・連絡ですが、報告・連絡（1）を学校施設課、お願いいたします。

○学校施設課長補佐（遠藤勝久君） それでは（1）「府中市学校施設大規模改修整備方針の策定について」、お手元の資料に基づきご説明いたします。教育委員会定例会資料1をご覧ください。

本件は本年4月の教育委員会定例会において、第9回学校施設老朽化対策特別委員会開催の報告として、府中市学校施設大規模改修整備方針（案）の作成についてご説明させていただきましたが、本年8月に特別委員会からのご意見を踏まえて修正を行い、教育委員会として学校施設大規模改修整備方針を策定いたしましたので、その概要と方針案からの修正点についてご報告をさせていただきます。

初めに、1の「趣旨」でございますが、府中市学校施設改築・長寿命化改修計画で定めた第2グループの学校について、老朽化対策を実施するまでに児童・生徒が安全・安心な学校生活を送ることができるよう、その間に必要となる具体的な大規模改修事業の整備方針を定めるとともに、改築事業が完了した学校について、計画的保全の考えに基づき大規模改修ができるよう、改築事業後に必要となる具体的な大規模改修事業の整備方針を定めるものです。

また、これらの具体的な大規模改修事業の整備方針に基づき、大規模改修に係るスケジュールや整備費用を示すことで、将来の財政見通しを明らかにし、各学校の改築事業と並行しながら、最低限必要となる大規模改修について計画的に実施ができるよう、本年5月に作成した原案について、学校施設老朽化対策特別委員会からのご意見を踏まえ修正し、令和3年度から令和32年度までの30年間を期間とする府中市学校施設大規模改修整備方針（以下「本方針」といいます。）を策定したものでございます。

次に、2の「概要」及び3の「主な修正点」につきましては、府中市学校施設大規模改修整備方針の本文に基づき、概要と主な修正点をご説明させていただきますが、主な修正点につきましては、資料1の2ページに記載した別表の「主な修正点」の新旧対照表の順番に合

わせ説明をしておりますので、併せてご覧ください。

それでは、本文を1枚おめくりいただき、右側の2ページをご覧ください。第1章の「本方針策定の背景と目的」につきましては、先ほどの概要のとおりとなります。

次に、第1章における方針案からの修正点でございますが、3ページをお開き願います。

3の「対象期間」について、今年度から検討を行っております適正規模・適正配置の基準となる考え方を反映するため、上から3行目、「なお、本方針については、」以降を、本文「改築・長寿命化改修計画の進捗状況との整合性を図るため、令和6年度に見直しを図ります。また、現在検討を進めている本市の適正規模・適正配置の基準となる考え方を踏まえ、三小及び六小に続く改築事業の実施校を選定したことにより、本方針に影響が出る場合は必要に応じて見直しを図ることとします。」に修正を行っております。

4ページをご覧ください。第2章の「これまでの大規模改修事業」では、1の「学校施設における大規模改修や修繕の考え方」として、これまでの本市の学校施設では、不具合の危険性が見込まれる場合などの対応として応急的な対応を要するものが多いことから、基本的には修繕により対応し、不具合を繰り返すなど、修繕では機能や性能を維持できず、抜本的な対応が必要な場合には大規模改修により対応していることを記載しております。

次に、2の「これまでの学校施設における整備費用」では、改築・長寿命化改修計画に記載したこれまでの学校施設の整備費用を記載しております。

5ページをご覧ください。3の「これまでに実施した主な大規模改修」では、これまで本市の学校施設では、各学校の劣化状況や不具合の発生状況に応じて経年劣化に伴う大規模改修を実施してきたこと、また、近年では、災害対策や熱中症対策などに対応するため、校舎・体育館の耐震化や、普通教室などへの空調設置を短期間で全校一斉に実施してきたことを記載しています。

なお、第2章につきましては、方針案からの修正点はございません。

6ページをご覧ください。第3章の「本方針の概要」では、1の「本方針における大規模改修の考え方」として、改築・長寿命化改修計画で示した改築事業費の総額が約1,370億円と多額になることから、本方針では、改築事業と並行して実施する大規模改修は、「経年劣化に伴う大規模改修」と「全市的な施策として短期間で実施すべき大規模改修」を実施することとし、実施に当たっては、児童・生徒の安全・安心や学校運営に与える影響などを考慮した上で選定することとしています。

なお、その他の改修については、現状の進め方と同様に、日常的な維持管理などを行う中で不具合の発生が見込まれる場合などに、対応方法を検討することとしています。

次に、2の「大規模改修事業の選定要件」でございますが、選定の要件として2項目を設定しています。(1)経年劣化に伴う大規模改修では、「①児童・生徒の安全・安心や学校運営に影響を及ぼすおそれがあるもの」。7ページに移りまして、②の「工事費が大きいもの」を選定の要件としています。また、(2)全市的な施策として短期間で実施すべき大規模改修として、国や都の動向等を踏まえ、社会的な問題や学校現場が抱える問題に対応する必要性が高い事業について選定することとしています。

次に、3の「大規模改修事業で実施する項目」といたしまして、(1)の経年劣化に伴う大規模改修では、アの「屋上・屋根防水改修」から、ページが飛びまして、9ページにござ

います、クの「ろ過設備更新」までの8項目を実施すべき項目として選定しております。

次に、(2)の全市的な施策として短期間で集中的に実施すべき大規模改修では、アの「校舎・体育館等のトイレ改修」から、10ページに移りまして、イの「感染症対策に伴う改修」の2項目としております。

次に、4の「大規模改修事業の対応方針」でございますが、大規模改修事業の実施は令和3年度から32年度までの期間でできる限り平準化することが望まれますが、学校現場が抱える問題や改修後の耐用年数を考慮すると、比較的早い時期に集中してしまうことから、令和3年度から10年単位で3つに期間を区分し、それぞれの期間内で必要な改修項目を設定し、費用の平準化を図るよう配慮することとしております。

11ページをご覧ください。(1)経年劣化に伴う大規模改修、及び(2)全市的な施策として短期間で実施すべき大規模改修の各改修項目における耐用年数、対象校、実施時期、対応をまとめ、表に記載しております。

12ページをご覧ください。5の「その他の改修項目について」では、その他の改修項目の対応を記載しており、各学校の状況を考慮した上で必要に応じて実施していくこととし、その一例を示しております。

次に、6の「本方針の運用」では、12ページから13ページにわたり、本方針の運用に当たって配慮すべき3つの項目を記載しています。

13ページをご覧ください。ページ中段の図1に改築事業、大規模改修事業、その他の改修項目についての実施スケジュールをまとめております。以上が第3章の概要でございます。

次に、第3章における方針案からの修正点でございますが、恐れ入りますが9ページにお戻りください。

9ページ(2)の全市的な施策として短期間で実施すべき大規模改修の「ア 校舎・体育館等のトイレ改修」について、災害時の利用を考慮し、体育館等のトイレについても改修を進めてほしいとのご意見をいただきましたので、表題に「体育館等」の文言を追記するとともに、下から2行目に「災害時の利用も鑑み、」の文言を追記しております。

次に、10ページに移りまして「イ 感染症対策に伴う改修」について、新型コロナウイルス感染症を含めた感染症対策についても、必要に応じて改修を進めてほしいとのご意見をいただいておりますので、イの「感染症対策に伴う改修」の項目を新たに追加しております。

それでは14ページをお開き願います。第4章の「本方針に基づく整備費用」では、対象期間内に見込まれる大規模改修事業の費用を記載しております。大規模改修事業費の合計は約130億円と見込んでおり、年平均費用は約4.3億円としています。また、その他の改修項目については、近年の実施状況から各年度の費用を5億円とした場合、大規模改修にかかる年間の合計費用は約9.3億円と見込まれます。

図2では、これまでの学校整備費と今後の学校整備費を示しており、左側の棒グラフの水色部分、これまでの学校整備費の大規模改修費の年平均費用の約16億円に対し、右側の棒グラフの青色と水色部分を合わせた今後の学校整備費の大規模改修費と比較し、約6.8億円を減少させていきたいと考えております。

15ページをご覧ください。図3では、各期間の平均費用をそれぞれ記載しております。

なお、第4章につきましては、方針案からの修正点はございません。

説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。ただいまの件につきまして、何かご質問、ご意見ございますか。

○委員（日野佳昭君） 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い財源が減少する中で、廃止・休止・先送りが求められています。予算編成を組むに当たって、今後、学校施設大規模改修の整備方針の変更について予算編成の変更を認められる、あるいは検討を要する予定はあるのでしょうか。

○学校施設課長補佐（遠藤勝久君） 新型コロナウイルス感染症に伴い、財政状況が悪化してくることが想定されるというところで、その場合の今後の対応についてでございますが、今後も市の財政状況、また、他の公共施設等の老朽化などの状況によっては、方針の予定どおり事業が進まないことも想定されております。また、学校の改築事業につきましても、今後具体的な改築順序が決まっていまいかと、改修を見込んでいた学校についても先送りというか、実施を見送るということも検討できると考えております。

そういった中で、整備方針に定めた範囲の中で、具体的な大規模改修事業の実施の精査を今後行ってまいりますので、財政部局ともよく調整しながら、実施に向けては調整をしていきたいということと、整備方針についても必要に応じて見直しを図ってまいりたいと考えております。

○教育長（浅沼昭夫君） ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

○委員（平原 保君） 意見よろしいでしょうか。先ほどの修正点についての説明がありましたが、9ページにある「校舎のトイレ改修」を「校舎・体育館等のトイレ改修」としたところ、ぜひこれは実現に向けて進めてほしいと考えております。災害時ということで、これまでは地震を想定しておりましたが、水害等の被害も考慮していくべきだと思いますので、ぜひ実現に向けて進めてほしいという思いがあります。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ご意見・要望ということでございます。よろしいですか。

それでは、報告・連絡（1）について了承いたします。



◎市史刊行物『市史編さんだより』第9号の発行について

○教育長（浅沼昭夫君） 報告・連絡（2）を、ふるさと文化財課、お願いします。

○市史編纂担当主幹（英 太郎君） 『府中市史編さんだより』第9号の発行についてご報告します。お手元の資料2をご覧ください。

今回の『市史編さんだより』の1ページの「ふちゅう温故知新」では、日鋼町の歴史を取り上げました。日鋼町は近代に何度も大きな変化を遂げてきた町です。この記事に合わせて、8ページでも日鋼町の写真を取り上げました。続く2ページから4ページにかけては新刊の市史刊行物の紹介、5ページでは講演会の開催報告、6ページと7ページでは専門部会の活動状況について報告しております。

『市史編さんだより』につきましては、図書館や市内の主な施設、学校に配布するとともに、市のホームページからのダウンロードができるようにしております。以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） ただいまの件につきまして、何かご質問・ご意見ございますか。

よろしいですか。

それでは、報告・連絡（２）について了承いたします。



◎その他

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第６、その他でございますが、何かございませうでしょうか。よろしいですか。



◎教育長報告

○教育長（浅沼昭夫君） 続きまして、日程第７、教育長報告に移ります。活動状況については別紙の「令和２年第８回教育委員会定例会教育委員会活動報告書」のとおりでございます。

なお、この報告書は令和２年７月１１日から令和２年８月１４日までの活動内容となっております。

私からご報告させていただきます。府中市議会市民フォーラムより「新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する要望（その４）」を、府中９条の会及び市民の方より中学校教科書採択に関する要望をいただきましたことをご報告いたします。

教育委員の皆様へ情報提供させていただきます。私からは以上です。



◎教育委員報告

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第８、教育委員報告に移ります。活動状況については別紙のとおりでございます。

まず日野委員、お願いいたします。

○委員（日野佳昭君） ７月３１日に総合教育会議の協議題で、新型コロナウイルス感染症に関しまして発言いたしました。しかし、日々変化していますので、少し追加させていただきます。

現在市内では、第一波に比べ、疑い患者さんは明らかに増加しております。感染症指定病院、保健所でのPCR検査数だけを見ても、検査の能力は増加しているはずなのですが、必要と考えられる患者さんは多く、医師会やPCRセンターへの協力が求められています。必要と思われる方への検査が全て網羅できません。具体的には高齢者施設、病院、学校、保育所、警察などのエッセンシャルワーカーの方が発熱して来られた場合も、全てにPCR検査ができる余裕はありません。一般の会社員でも、PCR検査をしなければ出社できないという方が多くいます。

７月の医師会PCRセンターの陽性率は約９％と高率で、各医療機関は新型コロナウイルス感染症を強く疑った症例を検査に依頼していることがうかがわれます。重症患者さんを扱う指定病院は第一波に比べてまだ余裕があるかもしれませんが、特に保健所は現在ひっ迫しております。そこで、会議の中で府中市独自のPCRセンター開設を要望しておきました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 府中市の小中学校の学校だよりには、コロナ対策と学びの保障の

両立の難しさに直面しながらも、校長先生を始め職員が一丸となつての取組や、子どもたちの学校生活の様子が記載されています。その中に、子どものストレスへの配慮についての複数の記述がありました。また、7月の教育委員会訪問校においては、小学校1年生、七夕飾りの短冊に「コロナがなくなってほしい」と習いたての平仮名で思いを記した記述が思い出されます。

長期にわたる様々な制約により、子どもたちには相当のストレスがかかっています。行動の変化や身体へのストレス反応など、小さな変化やSOS信号を敏感に捉えて、不安を和らげていくことが求められています。また、子どもの不安や焦りがいじめや偏見、差別などにつながるよう配慮することが重要です。

厳しい暑さが続いています。間もなく夏休みが終わり、週明けの8月24日月曜日からは2学期が始まります。コロナ感染予防と熱中症予防に配慮して、子どもの心身の健康を第一として、子どもたちが学習に取り組んでいけるように教育委員会として支援していきたいと考えています。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 7月31日の総合教育会議では、市の教育予算並びに今回のコロナ対策ということで、学校での状況についていろいろと皆さんで意見交換をさせていただきました。学校の様子を見ますと、遅れが出ている学習に対しての先生方の補助的な授業ですとか、そういったところで準備など、教職員の皆さんが大変ご苦労されて頑張っていると思います。また、これまでになかった放課後の消毒作業など、先生方も大変お疲れのところ、本当に真摯に頑張ってくださいしています。例のない2週間という短い夏休みを迎えていますけれども、それもあと数日で終わりとなりますので、引き続き感染を心配しながらになりますが、2学期、子どもたちが安心・安全に様々な学びが得られる学校生活となることを期待しています。また、そういったことをサポートしていけるように教育委員会としてもやっていきたいと思っています。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。増淵委員、お願いいたします。

○委員（増淵達夫君） 私は大きく2点。1つは7月31日の総合教育会議です。市長さんを前にして、ICT環境の整備について私もお話をしました。先ほどの補正予算のところとも関係しますが、このICT環境の整備は学校教育の充実ということに大きくつながるだけではなくて、地域の高齢者等の情報格差の解消ということにもつながってくると思います。先ほどの補正予算も絡めると、全ての子どもたちがタブレットを持って学校、それから家庭まで持ち帰らせるかどうかはこの後の検討になるかと思いますが、そういう可能性が広がってくると思いますので、ぜひこれはハード面もちろんそうですし、それからソフト面、使い方、それから指導内容、指導方法、そういったことも進めていく必要があるということに改めて思いました。

この総合教育会議は、新しい学習指導要領のことですとか、教育改革の動きを踏まえながら、将来の市の教育の在り方について長期的、大局的な展望を市長と共有できる極めて貴重な機会だと思いました。これは市長さんが主催する会議ですが、ぜひこれを意義あるものにしたい、更に充実できるようにしたいと考えていますので、教育委員の立場としてもぜひ戦略的に活用できればなと思いました。これが1点目です。

それから2点目は、各学校から学校だよりが配付されていますので、私も少し見てみましたけれども、eライブラリアドバンスの活用促進に関する記事が随分あちこちの学校で出ていました。せっかく整備しましたので、ぜひこれは活用していただきたいと思いますし、その後押しもしていただければと思います。ぜひその活用状況の内容ですとか、もしできればこの教育委員会の場でも紹介していただければと思います。

それからこの学校だよりの中に、学校閉庁日に関する記事も随分たくさんありました。これは働き方改革の推進の一環として非常に重要なことだと思いますけれども、今年はわずか2週間ぐらいの中で、どこまで確実に取れているのかなとちょっと気になります。この教員の働き方改革については、保護者や地域、市民の理解が極めて重要ですので、引き続きこの理解促進を図っていきたいと思いますし、それから今、退職者の増加に伴って、教員採用選考の倍率低下等もあります。優秀な教員を確保する、そういった観点からも、ぜひこの学校閉庁日の理解を促進できればと思います。以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。

それでは、ここで定例会を中断いたします。少し長めに15分間の時間を取ります。2時55分から再開したいと思います。

午後2時40分中断



午後2時55分再開



◎第42号議案 令和3年度使用教科用図書の採択について

○教育長（浅沼昭夫君） それでは定例会を再開いたします。

第42号議案の審議に入ります。第42号議案については、教育委員会臨時会を開催し、協議を行った結果を踏まえ、選定した採択候補図書を本定例会において議案として提出するものです。採択候補の教科書選定に係る教育委員会臨時会の会議録については、採択後ホームページ等で公開してまいります。

それでは、議案の朗読をお願いいたします。

（事務局朗読）

○教育長（浅沼昭夫君） 事務局の説明、よろしいですか。お願いします。

○統括指導主事（吉田周平君） 令和3年度における小学校用教科書についてご説明いたします。小学校用教科書につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条の規定に基づき、令和元年度に令和2年度から令和5年度まで使用する教科書についてご審議していただいております。そのため、今年度につきましては、全教科、全種目において、現在使用している小学校用教科書と同一の教科書を採択候補として挙げさせていただきます。説明は以上となります。ご審議のほどよろしくをお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。よろしいですか。

ご意見ございますか。

それでは、小学校用教科用図書について、別紙1のとおり採択するということにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) それでは全員異議なしですので、次に進みたいと思います。

続いて、2の中学校用教科用図書について、種目ごとに確認をしていきます。まず、全体及び国語から説明をお願いします。

○統括指導主事(吉田周平君) それでは、令和3年度使用教科用図書採択における中学校用教科書についてご説明いたします。

今年度の教科書採択に係る事務につきましては、令和2年4月16日に開催されました教育委員会定例会におきまして決定いただきました、令和3年度使用教科用図書採択に関する方針に基づき進めてまいりました。調査・研究につきましては、市立中学校への学校調査を全11校に見本本を回覧して実施しました。また、教科ごとに教科用図書調査・研究委員会を構成し、それぞれの委員会で調査・研究を行い、その資料を基に教科用図書選定資料作成委員会で選定資料の作成を行いました。

なお、調査・研究委員及び選定資料作成委員を委嘱した全ての者につきましては、今回の中学校用教科書の作成に一切関与していないことを、書面をもって確認済みであることをここでご報告いたします。

続きまして、教科書の発行に関する臨時措置法第5条に基づき、法定展示会を14日間、7月3日から7月16日の期間で、教育センターを会場として開催いたしました。期間中は56名の方にご来場いただき、45件のアンケートをいただきました。今回の中学校用教科書の採択に当たりましては、本日、お手元に配付いたしました教科用図書採択候補選定資料や、委員の皆様にお届けしてございます教科書の見本本をご覧になってのご意見などに基づいて、ご審議いただき採択していただくこととなります。

では、資料1の教科用図書選定資料に則り、1教科ずつ教科用図書選定委員会からの報告をいたしますので、ご審議をお願いいたします。

国語についてご報告いたします。教科書の発行者は4社となります。各社ともに読み物教材では近現代文学における名作が多く挙げられており、外国文学も各社ともバランスよく教材が選定されていることが特徴として報告されております。それ以外にも、各社工夫を凝らしている点として報告があったのは、科学的資料や探究的な場面を意図的に取り扱っていることや、二次元コードなどを設定し、個人でも学習が深められるような教科書の構成になっているとのことでした。国語については以上です。ご審議のほどよろしく願いいたします。

○教育長(浅沼昭夫君) 事務局の説明が終わりました。

それでは、私から最初に御礼を申し上げたいと思います。

どの教科書も新学習指導要領の下での学習方針を明確にして、大変充実した内容、体裁、独自の工夫を読み取ることができました。こうした教科書が我が国の学校教育の質の維持向上に大きく寄与していることは間違いないこととあります。関係者の皆様方のご努力に深く感謝の言葉を申し上げたいと思います。多くの教科書を前にして選んで採択できるのは大変意義のあることでありまして、今後もこうした状況を継続してほしいと願っています。本当にありがとうございました。

次に、教育、教科書に関心を持たれまして、コロナ禍で外出もままならない中、7月3日から16日までの間、教科用図書の見本本展示会で実際に本を手に取り、ご感想を寄せてい

いただきました多くの方々にもお礼を申しあげたいと思います。先ほど報告がありましたように、56名の方々の様々なご意見を参考にさせていただきました。ありがとうございました。

加えまして大変お忙しい中、教科用図書選定資料作成委員会、そして市内の校長先生、各先生方にはご尽力をいただきました。直接指導に当たる立場から貴重なご意見や分析資料をいただき、大変参考になりました。ありがとうございました。お礼を申し上げます。

それでは、中学校用教科用図書について、教育委員会臨時会での協議、その後の調査・研究なども踏まえまして、教育委員会臨時会の内容と重複しても構いませんので、ご意見をいただきたいと思います。まず日野委員、お願いいたします。

○委員（日野佳昭君） 国語は1番に光村図書、2番目に教育出版を推薦します。私の中学校時代は部活が大変忙しく、読書はほとんどできなかった気がします。しかし、多くの本を読むことはどの科目にも将来大変役に立ちます。図書館の本をぜひ利用していただき、全作を読むくらいの気概が欲しいものです。

さて、どの教科書も各単元の終わりに学習の手引きが書かれている構成ですが、大変予習に役立ちます。この点で光村は、「捉える・読み深める・考えをもつ・振り返る」とその単元で学習することが詳しく明確になっています。学習の見通しとして「話すこと・聞くこと」から「議論する・いろいろな文章を解く・いろいろな文章を読む」という学習の流れも大変わかりやすく感じました。教育出版も同様で、更に読み応えのある作品が取り入れられていることが推薦理由です。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 私は第一に光村図書、第二に教育出版を推薦します。国語の学習では、言語活動を通して国語を正確に理解し、適切に表現する資質能力を育成することが重要です。光村図書の教科書では、1年生「情報を整理して書こう」「根拠を示して説明しよう」など、説明的な文章を書く活動が数多く設定されており、充実しています。また、2年生の教科書では、「多様な方法で情報を集めよう」「表現を工夫して書こう～手紙や電子メールを書く～」など、実用的な文章を書く活動が数多く設定されています。さらに、3年生の教科書では、説明的な文章と実用的な文章をバランスよく配置して、文章を書く活動が充実しており、3年間を通して文章を書く力が高められることが期待できます。

読むことについては、各学年の教科書で説明的な文章と文学的な文章、詩歌などがバランスよく配置されており、生徒の思考力や想像力、伝え合う力を高められるよう工夫されています。また優れた作品との出会いを通して、学びに向かう力や豊かな人間性を養うことにつながります。

また、全体的に色調が落ち着いて見やすく、いずれのページも読みやすく学びやすいように工夫され、生徒の学習が高まると期待できます。二次元コードや教科書に示されているURLから、学習の参考となる資料を活用することもできます。

教育出版では巻頭に資料「言葉の地図」があり、1年間で学習内容と身につけたい言葉の力が一覧表示されています。この一覧表を用いて、見通しをもって国語の学習に取り組んでいけるよう工夫されています。

読むことについては、自然や環境、科学や情報など、幅広いジャンルに関する説明的な文章、また、文学的な文章、詩歌も豊富に配置されています。優れた作品との出会いを通して、

学びに向かう力や豊かな人間性を養うことにつながると考えます。また、二次元コードから学びを広げるための資料を活用することもできる。

以上の理由から2社を推薦いたしました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 私は第一に光村図書、第二に教育出版を推薦させていただきます。

理由ですけれども、まず光村図書は、巻頭に「思考の地図」として思考を広げる、整理する、深めるといった様々な考え方について説明があるところがよいと思いました。また、巻末の学習に必要な基本的な観点などをまとめた「学習の窓」が本文にも掲載されており、わかりやすいと思いました。また、著名な作家の作品が多く読みやすいところ、イラストや資料の配置もよく、紙面が見やすいところ、また、情報分野の教材が多く掲載されているところが推薦理由です。

次に教育出版です。こちら本文に入る前に「学びナビ」で何を学ぶかを意識づけしているところがよいと思いました。また、色合いが大変柔らかく、目に優しく、和らぐ感じがよいと感じました。また、デジタルコンテンツの「まなびリンク」は、全学年分、全教科を見ることができるところが大変便利だと感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは増淵委員、お願いいたします。

○委員（増淵達夫君） 私は、国語については、第一候補は光村、第二候補は東京書籍にしました。

今回の学習指導要領の主な改訂点のところ、国語については情報の扱い方に関する知識・技能、これが国語科において育成すべき重要な資質・能力と位置づけられて、情報の扱い方に関する事項が新設されています。それから中教審の答申などにおいても、「我が国の言語文化に親しみ、愛情をもって享受し、その担い手として言語文化を継承・発展させる態度を小学校・中学校・高等学校を通じて育成する」ということから、伝統文化に関する学習を重視することが必要とされていまして、我が国の言語文化に関する事項の内容の改善を図っています。それから読書についてですけれども、国語で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の1つということ踏まえ、国語科の学習が読書活動に結びつくように読書に関する指導事項を位置づけています。

それから、全国学力・学習状況調査の結果分析から、本市の小学生については「書くことの指導が必要である」という指摘がありました。これは平成31年度の調査ですので、この子たちが中学校に入ってきます。それから中学生については、「話し合いの方向を捉えて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめる」指導が必要だという指摘がありました。

こういったことを踏まえて教科書を分析してみると、光村は情報の扱い方に関する事項の記載が最も充実しています。それから、我が国の言語文化に関する事項を多く取り扱っている教科書は、教育出版、光村、三省堂の順番になっています。それから、書くことの言語活動別の単元数が最も多いのが東京書籍と光村、そして、次いで三省堂となっています。それから、話すこと・聞くことの言語活動別の単元としては、光村、東京書籍、教育出版となっています。それから、読書指導への配慮についてですけれども、光村については教科書に掲載された資料が、ある部分の抜粋の場合には「続きはこちら」という欄があって、続きを読

むためのガイドがあります。それから著者紹介欄には、当該著者のほかの作品を紹介するなど工夫が見られていて、当該著者のほかの作品が紹介されています。同様のページは、東京書籍にも掲載されていました。

以上を総合して、学習指導要領改訂の趣旨の反映ですとか、全国学力・学習状況調査から見た本市中学生の課題などを踏まえて、第一候補を光村、第二候補を東京書籍といたしました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、最後に私の意見を申しあげたいと思いますが、国語に入る前に、教科書全体に関していくつか気づいたことを、少しお時間をいただいております。

昨年9月から全小学校にタブレット等電子黒板機能付きのディスプレイを配備いたしました。デジタル機器を駆使することで、児童の情報リテラシーを向上させることはもちろんですけれども、先生方の教材準備や資料作成に役立つものと期待しましたが、学校の状況を伺うと、その活用状況は良好と承っています。また、タブレットを使っての自宅学習を踏まえた反転学習なども新たな学習方法として取り入れていきたいというお話もございますので、従来の教育指導の在り方の見直しや改善につながるものと期待しています。

今後は先ほど令和2年度一般会計補正予算でご審議いただきましたけれども、1人1台のタブレット利用、GIGAスクール構想の実現に向けて取り組んでいくことになります。このようにICT機器も活用してネット情報の中から取捨選択するなど、主体的な学びの環境が充実してきています。

こういう中で、第一に、小学校同様に教科書にQRコードが採用された取組が目を引きました。そのQRコードの導入については、教科書会社によって濃淡が少しあるのかなと感じたところです。そして全体的に見て、小学校に比べてその数は少ないのかなという気がしました。その理由として考えたことは、小学生に比べて中学生という、興味関心が多様化してネット情報の検索にも手慣れているということから、主体的な学び行動を期待してのことであるならば、この考えは歓迎したいと思っています。

次は、数学科の平面や空間の図形、理科の宇宙と天体の動き、中和反応の様子など、動画によって理解を深める学習においては、積極的にこういったQRコードを導入してもらいたいという気がしました。

教科書会社のホームページですけれども、その内容は教科書の内容とは違っていて、文科省に意見を届け出るだけで改善・充実ができるということですから、実際に教育現場の声も今後反映してほしいと願っています。

そしてその形式は、教科書の1箇所はそのコードが記載されているものと、関連ページにあるものが分かれていました。どちらが効果的かは実際の使用に供して判断するでしょうが、私は各ページにQRコードがあったほうがいいのか、予習復習の面でも子どもたちにとって効果的ではないのかなと思いました。ICTが学校だけでなく、家庭学習にも活用される時代になった気がしました。練習問題や発展問題なども今後、豊富に取り入れていただけたらありがたいと思います。

それから、今まで禁止されてきました中高生の学校へのスマホ持ち込みも、一定の条件・配慮のもとで可能になりました。これから保護者の方々も、多分何年生でスマホを持たせる

かという、そういう I C T 機器から将来設計を活用して、新たな価値を創造し、豊かに生き抜く資質・能力を備えた子どもたちをどのように育成するかという姿勢に共に立っていただいて、考えていきたい課題と捉えています。

それから最後なのですが、従前にもまして学習効果を高める写真を多用していることや、興味関心を高める工夫として漫画・イラスト、それからページ外の空きに豆知識を工夫した教科書などが目を引きました。

前置きはこの程度として、国語について意見を申しあげたいと思います。私は光村図書を採択したいと思います。

どの教科書も良質な作品や多様な指導に供するように工夫されていますけど、光村では、国語教育において O E C D の学習到達度調査、下のほうに「読解力が国際比較で急落した」ということが入っており、実用重視という声もある中で、情報化社会での強みが各学年に取り入れているということが1つです。

それから、文学的な文章教材が非常に充実している。例えば、国語の本質である言葉の力として、国文学者の大岡信さんの随筆に加筆した文を取り上げ、言葉による資質・能力、人間の内面の表出として美しい言葉、正しい言葉への理解を深めさせている点に注目しました。

それから、主教材のジャンルごとに思考力・判断力・表現力と知識・理論の一覧があり、1年間の学習の見通しを持った学習の積み重ねが期待できる工夫がある。これもその特徴かなと思いました。

そのほかにも、裏表紙の裏の見開き、各章の扉裏側に、少しユニークな時を表す言葉であるとか、色の名前とか、季節の言葉ということで、日本語の豊かな表現に関心が持てる工夫をしているという点が推薦の理由であります。光村図書を推薦いたします。

ほかにご意見やご質問等ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは国語については、次年度より光村図書出版を採択するというご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) それでは続いて、書写について説明をお願いいたします。

○統括指導主事(吉田周平君) 国語、書写につきましてご報告いたします。教科書の発行者は4社となります。

各社の傾向として、楷書から行書への学習過程で教科書が構成されており、硬筆については直接教科書に書き込めるという特徴があり、毛筆については書き順や書く筆順の流れが生徒にわかりやすく表示されている。文字文化については、各社とも記載内容が充実し、増えてきており、文字に対する関心が高められていく学習内容となっている。また、各社とも二次元コードを使って実際に見て、書ける動画コンテンツが用意されているとのことでした。

書写については以上です。ご審議のほどよろしくをお願いいたします。

○教育長(浅沼昭夫君) 説明が終わりました。それでは日野委員、お願いいたします。

○委員(日野佳昭君) 書写は一番に教育出版、二番に光村図書を推薦します。どちらも毛筆の筆の運びがとてもわかりやすい、また、楷書、行書の書き方の説明が丁寧と感じました。教育出版の資料はわかりやすく、手本も多く、文字の練習がたくさんできます。百人一首があり、古文の学習にもよいと思いました。光村図書の日常に役立つ書式はとてもいい、

役立つ知識と思います。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 私は第一に教育出版、第二に東京書籍を推薦します。

書写の指導においては、小学校の学習を踏まえて「文字を正しく整えて書くことができるようにすること」と「書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てること」が大切です。

このような視点から、教育出版ではワイド版のサイズで余裕のあるレイアウトで、手本の文字の大きさや字形が見やすく、生徒が字形や文字の大きさ、配列などを理解して、基礎基本の学習をすることができると思えました。楷書、行書とも字形が美しく、生徒の手本として用いるのにふさわしく、楷書と行書の特性やよさに気づいて、文字を書けるように配慮されています。2つ目に、学習や日常生活に生かして書く活動が豊富に取り入れられ、書写の能力を役立てる場が設定されています。そして、身の回りの多様な表現を通して文字を文化として大切にしようとする態度が育っていくことが期待できます。コラムで取り上げている各種テーマ「用具に関する知識」「文字の変遷」などを通して、生徒が我が国の言語文化を理解するように工夫されています。4点目に、表装や本文の色調・表現が美しく、3年間使用していく中で文字文化のすばらしさや大切さに気づいていけると配慮されています。

また、東京書籍もワイド版のサイズで、手本の文字も大きさや字形が見やすく、字形を整えて書くことに適していると思えました。また、学習や日常生活に生かして書く活動が取り入れられ、書写の能力を役立てる場が設定されています。また、コラム「文字のいずみ」には、文字文化に関する様々なテーマが取り上げられています。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 私は、書写は第一が教育出版、第二に光村図書を推薦させていただきます。

理由ですけれども、まず、教育出版は、教科書が見開きで使いやすいこと、また、学年ごとにページが色分けされていて見やすいと感じました。次に、筆や墨など用具についてや、文字に関わるコラムが多数あり、興味が持てるなど思いました。それと、書き初めの原寸大のお手本がついているところもよかったです。最後に「書式の教室」として、手紙の書き方など、社会人として必要な様々なことが実用的に学べるところがよいと思いました。

次に、光村図書です。こちらも同様に見開きで使いやすいところがよかったです。また、筆の書き始めから終わりまでを音で表しているのがわかりやすくてよかったです。また、半紙サイズのお手本が多くついていて使いやすいなど感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 増淵委員、お願いいたします。

○委員（増淵達夫君） 私は、書写は第一候補を光村、第二候補を東京書籍としました。

指導要領では、例えば第3学年の指導内容として、「身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書く」ということなどが求められています。教科書を分析してみると、「身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書く」という内容については、東京書籍、光村、この辺が充実していました。

それから、「漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書く」ということについては教育出版が一番多くて、次いで東京書籍、三省堂となっていますが、あまり大きな差がないかなと思いました。

それから、書写が国語の指導内容の1つでもあるということを考えると、国語との関連も考慮すべきだと思ひまして、第一候補を光村、第二候補を東京書籍としました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは私の意見を申し上げます。

私は小学校でも光村図書を使用するというので、引き続いて同じ編集方針、筆遣い等が一貫したほうがいいのかと考へました。

そして、光村図書には教材の各ページにQRコードがあり、今後整備されるICT機器を使って、動画を通しての指導を効果的に学ぶことができる。それから毛筆での書を使った穂先の向きで動きの説明が、写真やイラストも必要に応じて使われており、極めてわかりやすく表示され、使いやすい教科書と言えるのではないかと考へました。

それから書写ブックがありまして、毛筆と硬筆の関連を学習できるとともに、デザインと文字、UD書体など、関連事項を理解する手だてがある。

資料としては、手紙の書き方やはがきの書き方など日常生活に役立つものがあり、エメールアドレスはなくなりましたが、電子メールや宅急便の送り状など、この時代の変化に応じながら、日常生活に役に立つと思われる。そういう内容です。

それから、筆順の表示がとてもわかりやすいということで、私は光村図書を推しました。

という私の意見ですが、もちろん別の方が言った教育出版には異議ございません。

ほかにご意見やご質問ございますか。よろしいですか。

それでは書写については、原案どおり、評価の高かった教育出版を採択するということにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは続いて社会科、地理的分野について説明をお願いいたします。

○統括指導主事（吉田周平君） 社会科、地理的分野につきましてご報告いたします。教科書の発行者は4社となります。我が国の国土について調査や資料など様々な情報を効果的にまとめる技能を育むために、各社共通して、物事を多面的に考えられるよう、カラフルな図表や写真等を掲載していることが特徴であり、子どもたちに様々な学習場面で考えさせることや、自分の意見を持たせるように工夫している。また、地図の教科書を発行している発行者は、自社の地図との密接な連携が取られていて、地図の教科書が活用しやすいよう内容が工夫されている。しかし、自社の地図が採択されなくても、教科書が利用できるような汎用性を持たせているとの報告がございました。地理的分野については以上です。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。それでは日野委員、お願いいたします。

○委員（日野佳昭君） 地理は1番に帝国書院、2番に教育出版を推薦します。

帝国書院は見通し、振り返りという展開で理解しやすい作り、また、写真・図が見やすく作られています。単元の終わりに「確認しよう」、「説明しよう」で学習の範囲を確認できます。教育出版は「つかむ・調べる・まとめる」という学習過程がわかりやすく作られていると思ひます。

地図は帝国書院を推薦していますので、使いやすいという理由で、第一に帝国書院を推薦することとしました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 私は第一に帝国書院、第二に東京書籍を推薦します。

まず帝国書院についてですが、巻頭に学習の仕方や地理的な見方・考え方、地理的分野の学習の見通しなどが、図解して簡潔に示されています。また、各章・各節に「章の問い」と「節の問い」が示され、生徒が課題を迫及したり解決したりする活動に主体的に取り組めるよう構成されています。

次に、写真や地図などの資料が鮮明で見やすく、課題を捉えやすく、写真の読み取り方や主題図の読み取り方などがわかりやすく示されています。こうした工夫により、生徒が資料を活用して、課題意識をもって主体的に学習に取り組めると考えられます。

コラムとして「技能をみがく」を設定して、地理を学習する上での必要な基礎的な技能を身につけさせるように工夫されています。

日本の様々な災害について、地形や気候と関係づけて理解したり、自然災害に対する備えについての努力や工夫に、考察したりできる効果的な資料が豊富に掲載されています。また、ハザードマップの読み取り方や防災情報の入手など、防災意識を高め、防災の知識や技能を身につけることができると考えます。

次に東京書籍についてですが、各章の初めに「小学校で習ったこと」が掲載されていて、小学校の学習を振り返る活動ができます。また、章末には「まとめの活動」「基礎基本のまとめ」が掲載されており、各種の学習を振り返り、基礎基本の定着を着実に行うことができます。

また、世界の人々の生活と環境を始め、鮮明な写真資料が豊富に掲載されています。また、複数の写真を比較する・1枚の写真から読み取る視点などがコラムにわかりやすく示されており、豊富な写真資料を有効活用できるように工夫されています。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは次、新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 私は第一に帝国書院、第二に東京書籍を推薦させていただきます。

理由ですけれども、まず帝国書院は、各ページともふんだんに写真等の資料があり、大変わかりやすいと感じました。また、文字が大き目で読みやすいところがよかったです。「技能を磨く」コーナーで、地理を学習する上で必要な基礎的なことが多く学べるところがよかったです。また、対話的な学びのためのコラムでは、防災に関して扱っているものが多いのは大変よかったです。

次に東京書籍です。こちらも各ページに課題等があり、対話学習や資料の読み取り、見方や考え方など、学習を深めることができるところがよかったです。また、Dマークの資料の中に、小学校の復習としてクイズがあり、楽しみながら学習できるところがよかったです。

○教育長（浅沼昭夫君） 増淵委員、お願いいたします。

○委員（増淵達夫君） 社会科、地理的分野について、私は、第一候補は帝国書院、第二候補は東京書籍としました。

学習指導要領では、「世界の諸地域の学習において、地球規模の課題等を主題として取り上げ、学習を充実させる」ということですか、「防災・安全教育に関して、空間情報に基づく危険の予測に関する指導を充実させる」、こういった辺りが主な改善点として取り上げられています。

地球規模の課題等を主題として取り上げた学習という観点から、持続可能な社会作りの扱いについて比較をすると、本文やコラムの項目数は帝国書院が最も多い形になっていて、次いで日本文教出版、東京書籍の順番です。

それから、防災・安全教育に関する記述ですけれども、これは日本文教出版、そして教育出版、東京書籍の順番になっています。

それから、地理的分野におきましては、地域調査の手法を確実に学ぶ必要があると思います。地域調査の手法という単元において取り上げている地域ですけれども、東京書籍は高知、教育出版は名古屋、帝国出版は東京都の練馬区、日本文教出版は京都であり、東京に関する地理的事象の扱いは、この地域調査の手法も含めて帝国が最も多い形になっています。

地球的規模の課題を身近な地域の課題から考えて行動できるようにする、そういった観点から、第一候補を帝国書院、第二候補を東京書籍としました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、最後に私の意見を申し上げます。

私は社会科、地理的分野には帝国書院を採用したいと思います。これは採択の順の違いになりますが、地図帳で帝国書院を採用したいという関連で、これを第一にしたいと思います。

それから内容ですが、各節の「学習を振り返ろう」から主体的・対話的な学び、地理的な見方、考え方など、新学習指導要領を意識することにより学習の深まりを促している点。それから、本市で取り組んでいるふるさと学習、防災教育に関連する事項を多く取り上げている。それから、SDGsの17の目標を掲げるなど、地域のよりよい発展を目指した日本や世界の取組を紹介しているということがございまして、帝国書院を推したいと思っています。

ほかにご意見や、ご質問等ございますか。よろしいですか。

それでは社会、地理的分野について、原案どおり帝国書院を採択することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて、社会、歴史的分野について説明をお願いいたします。

○統括指導主事（吉田周平君） 社会科、歴史的分野につきましてご報告いたします。教科書の発行者は7社となります。社会科では、社会的事象の意味・意義、特色、相互の関連を多面的・多角的に図っていくことが大切となっており、特に歴史では、子どもたちに大きな事象の学習の流れをつかませ、単発的な事象として理解させるのではなく、関連性を持たせて理解させるということが大切であると捉えている。そのため、様々な歴史的資料やバラエティに富んだ資料を各社が用意しているところが、今回の特色となっているとの報告がありました。歴史的分野については以上です。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。それでは日野委員、お願いいたします。

○委員（日野佳昭君） 歴史は1番に帝国書院、2番、3番で東京書籍と教育出版を推薦します。

歴史は情報が公平に作られているかが大切です。また、私の場合は記憶するとき、写真として教科書を見ることがありますので、色遣いや写真など、ページ全体が見やすいかも基準の1つとして見ました。

帝国書院は読みやすく作られている、歴史年表も見やすい、単元の初めの問いが理解しやすいという利点があります。東京書籍は初めの学習課題がわかりやすい、資料が多く見やす

と思います。教育出版と帝国書院は単元ごとに年表があり、まとめやすい。教育出版は、最後の確認の部分で自分の考えをまとめやすいと感じます。

それで第一に帝国書院、2番、3番として東京書籍、教育出版を推薦しました。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 私は第一に東京書籍、第二に教育出版を推薦します。

まず東京書籍についてですが、次の5点から推薦しました。

第1章「歴史へのとびら」には、小学校の学習を振り返って概観し、更に歴史を深く学習するために「歴史の見方・考え方」などが12ページにわたり、わかりやすく丁寧に取り上げられています。第二に、日本の歴史の背景となる世界の歴史を扱う左ページ下欄には、世紀と日本の時代区分を示す年表が記載されており、常に日本と世界の歴史を関連して学習できるように配慮されています。3点目、各章の導入には絵図や年表、探究課題、小学校の学習との関連などが見開きページで掲載され、生徒が見通しをもって主体的に課題を探究していけるよう構成されています。また、二次元コードから専用のウェブページで様々な情報を得て活用して、生徒が学校や家庭で学習できるようになっています。4点目、防災や自然災害に関する歴史について、「日本が直面する課題」として、本文には阪神・淡路大震災及び東日本大震災が取り上げられ、コラム「震災の記憶を語り継ぐ」には日本の震災の歴史年表、「稲村の火」や「東日本大震災の記憶を伝える取組」などが、見開きページで掲載されています。5点目、最終節「新たな時代の日本と世界」では、歴史学習で学んだことを生かして、平和・環境・資源・食料・感染症などの課題から、グローバル化・情報化社会において、よりよい社会を創る国際協調への重要性を考える構成になっています。

教育出版については、次の4点から推薦しました。

第1章では、中学校で歴史を学習するために「歴史の見方・考え方」「学習の進め方」など、15ページにわたって丁寧に取り上げられています。第2点目、各章の導入には、中扉に年表と学習の見通しが示され、続く見開きページに「学習をはじめよう」として、絵図や写真資料と3つの問いが掲示されています。3点目、防災や自然災害に対する歴史について、本文やコラム・写真など、豊富に掲載されています。「関東大震災と後藤新平」には現在につながる復興事業、本文「災害に向き合う」には、阪神・淡路大震災及び東日本大震災、熊本・大分や北海道の各地での地震発生などが取り上げられ、地域の復興と今後の災害対策について丁寧に記述されています。また、最終節「未来をひらくために」では、広島平和記念式典、青年海外協力隊の活躍など、写真資料が豊富に掲載されています。こうした資料を基に、世界と平和と人権、環境問題などについて、生徒が歴史学習で学んだことを生かして考えられる構成になっています。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、続きまして新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 私は、歴史的分野は第一が東京書籍、第二に帝国書院を推薦させていただきます。

理由ですけれども、まず東京書籍は、各ページともふんだんに写真等の資料がありわかりやすく、また、文字が大き目で見やすく、読みやすかったです。また、各ページに課題等があり、対話学習や資料の読み取り、見方や考え方など、学習を深めることができよいと思いました。Dマークの資料の中に、小学校の復習として歴史人物を当てるクイズなどがあり、

楽しめるところがよかったです。

次に帝国書院です。こちら写真や資料等大変多く、文字が大きく読みやすいところが一緒でした。章の初め、本文、最後に「タイムトラベル」というタイトルで、時代の流れとともに暮らしがどう変わったかが確認できるのがわかりやすく、よかったです。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） では増渕委員、お願いいたします。

○委員（増渕達夫君） 社会科、歴史的分野について、私は、第一候補は山川出版、第二候補は東京書籍としました。

歴史分野について学習指導要領の主な改訂点として、「我が国の歴史的事象に間接的な影響を与えた世界の歴史の学習について充実させる」ということが1点あります。それから「国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と、現在に伝わる文化遺産について興味関心を育てる指導に努める」ということもありますし、「身近な地域の歴史上の人物と文化遺産を取り上げて指導するよう留意する」、こういった記述もあります。それから「知識と議論を結びつける学習と、思考力・判断力・表現力を身につける学習を有機的に結びつけて、課題探究的な学習の実現」、これも今回の学習指導要領で強調されているところです。

こういった観点から教科書を分析すると、世界の歴史について取り上げている箇所が多い教科書は山川出版が最も多く、次いで帝国書院、そして東京書籍、教育出版、育鵬社となっています。

この中で山川出版の教科書は、各章の初め2ページの見開きに、その章で扱う時代の日本史、それから世界史の年表に主な歴史上の出来事も記載されていまして、相互に関連づけながら時代を概観できるようにするとともに、章末のまとめにおいても、海外との関係に関する問いを設けるなどの工夫がありました。

それから、歴史上の人物の取扱いについては、育鵬社、山川出版、教育出版が充実していると思いました。

それから、主な文化遺産の取扱いについては、東京書籍、育鵬社、帝国書院が充実していると思いました。

それから、探究的な学びについてですけれども、東京書籍については、項目ごとの学習課題の設定とともに章ごとに探究課題を示し、その最後にそれらのヒント「探究のステップ」というのを置いて、単元全体の指導の中でこの探究的な学びができるような、そういう編集上の工夫があると思いました。

山川出版は「歴史へのアプローチ」、「歴史を考えよう」、「地域からのアプローチ」などの特設ページを設けて、生徒がコラムを読んだり活動したりすることを通して歴史的思考力を育成する、そういった工夫が見られました。

それから教育出版は、各項目に学習課題が示されています。

育鵬社は各章の冒頭に「鳥の目で見える歴史絵巻」が置かれて歴史を概観できるようにするとともに、章末に「私の歴史博物館をデザインしてみよう」と概要をまとめるような工夫がされています。

以上を総合して、特に世界史と日本史との関連、それから探究的な学びへの配慮、この2点から、第一候補を山川出版、第二候補を東京書籍としました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、最後に私の意見を申し上げます。

私は東京書籍を採択したいと思います。図版が大きく見やすい工夫と、見開き2ページが1単位時間として学習するように内容を精選した構成になっているということ。

それから、取り上げられている文化遺産が最も多く、本市の歴史を理解し考える上で、ふさわしいと思います。それから「歴史へのとびら」の中で、我が国の歴史の大きな流れを理解する学習の一層の重視の観点から、時期や年代の表し方、歴史の流れの捉え方、年号、特色の捉え方など、歴史の見方、考え方を中心に書かれているということです。

それから、国府と国司についても確認しましたが、国府が置かれた旧国名と現在の都道府県名が示された地図が巻末資料として掲載されています。すごく小さい扱いではありますがけれども、五畿七道として府中市にある東山道の地図が記載されておりました。

全体を通して現代前までの時代で、本文の見開きの内容がどの時期に当たるのかを明示している点は工夫がしてあるなと思いました。

そして、次の候補なのですが、今回新たに教科書を作られた山川出版社が資料も豊富で、発問の仕方が他社に比べて大変深い学びを求めている、そのような気がしたので、第二候補としては山川出版社を推したいと思います。私からは以上です。

ほかにご意見やご質問等ございますか。よろしいですか。

それでは、社会、歴史的分野についてですが、原案どおり東京書籍を採択することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは続きまして、社会、公民的分野について説明をお願いいたします。

○統括指導主事（吉田周平君） 社会、公民的分野につきましてご報告いたします。教科書の発行者は6社となります。公民的分野については、特に考えさせる、それぞれ生徒に課題を与えて自らの意見を持たせる、また、そうした意見をディベートなどで闘わせ合う形で自らの考えをまとめ、発表させるという学習の工夫がなされていることが、全体的な特徴となっている。特に公民的分野は、3年生で学ぶことから、地理的分野や歴史的分野といった既習事項との関連を図ることが明確化されていることが教科書の特徴となっているとのことでした。公民的分野については以上です。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。日野委員、ご意見をお願いいたします。

○委員（日野佳昭君） 公民は1番に帝国書院、2番目に東京書籍を推薦します。公民は天皇、韓国、戦争、領土問題などの記述が公平・公正にバランスよく記載されているかをまず考慮しました。

帝国書院は図、写真、資料などの配置が統一されてとても見やすい。学習課題から始まり、確認、説明しようと、学習を進めやすい。東京書籍も学習課題で始まり、チェック、トライと学習を進めやすく、また、資料が多いことにより2番目に推薦しました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 私は第一に帝国書院、第二に教育出版を推薦します。

まず帝国書院についてですが、1点目、生徒が既習事項との関連を捉えた上で、公民の学び方に見通しをもって取り組めます。さらに、主体的な学習を促す課題が多く、身近な事例

を取り上げ、生徒が課題解決の学習に取り組めると考えます。2点目、各章末には、振り返りながら学習内容を定着していけるよう工夫されています。3点目、全般的に語句の説明、解説や写真・イラスト資料がわかりやすく表現されています。また、基本的人権に関して、人権作文についての掲載があります。府中市でも長年にわたり、小中学生が人権作文に取り組んでおり、人権作文発表会も開催されています。こうした生徒の身近な体験と重ねて、公民の学習で人権について深く考えることができると期待されます。4点目、持続可能な社会の実現に向けた地方自治体として、多摩川流域での環境への取組について、写真入りのコラムが掲載されています。毎年、府中市においても各種団体の多摩川の清掃活動が行われ、多くの児童・生徒も参加しています。こうした経験と結びつけて、地球規模の視野をもって、足元の問題を見つめながら、公民の学習を主体的に進めることが期待できます。

教育出版について、1点目、4人のキャラクターを登場させて、各章における問いを基に生徒が興味をもって学習課題を追及できるように工夫されています。2点目、身近にある人権問題を取り上げたり、社会の変化と新しい人権をわかりやすく提示したり、生徒が人権を身近なものとして捉えて学習できるように工夫されています。3点目、地方自治と住民の参加について、自分たちが暮らす身近な地域の政治について主体的に学習できるように構成されています。4点目、安心して豊かに暮らせる社会について、生徒自身の15年を振り返ることから、身近な暮らしを支える社会保障について考えることができるように工夫されていました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 私は、公民的分野は第一が帝国書院、第二に東京書籍を推薦させていただきます。

理由ですけれども、まず帝国書院、こちらは各ページふだんに写真・資料があり、わかりやすいところがよかったです。また、章の初めに各年代の町の様子がイラストで紹介され、これまでの社会経済等変化が見やすくなっているところがよかったです。また、多摩川清掃の様子が写真掲載されていて、府中でも参加されている方が多く、身近な題材で興味を持てるところがよいと思いました。

次に東京書籍です。こちらは文字が大きい目で読みやすかったです。また、Dマークで資料を見ると、一度開けば全てのコンテンツが見られるところが便利でした。また、各ページに課題等があり、対話学習や資料の読み取り、見方や考え方など、学習を深めることができるところがよかったですので推薦させていただきます。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 増淵委員、お願いいたします。

○委員（増淵達夫君） 公民的分野については、第一候補は東京書籍、第二候補は教育出版としました。

学習指導要領の主な改訂のところですが、防災情報の発信・活用に関する指導すとか、起業に関する取扱い、それから選挙権年齢引き下げに伴う政治参加、こういった辺りの充実が求められています。それから、政治や経済などに関わる制度や仕組みの意義や働きについて理解を深めること、多面的・多角的に考察・構想し、表現できるようにする。こういった辺りも今回重視されているところです。さらには、課題の探究を通して社会の形成に参画することの態度を養う、こういったことが求められています。

こういった観点から教科書を分析すると、まず、防災や自然災害等における関係機関の役割などについて、この扱いは東京書籍、それから日本文教出版、育鵬社、こういったところは本文、コラム、写真等で扱っています。

それから、起業についてですけれども、今回初めて取り上げられているために、具体的な記述と指導の方向性が示されている必要があると思いました。東京書籍については、本文とともに同じページにコラムが掲載されています。教育出版は、本文とともに別のページに特設のページが設けられています。帝国書院についても同じように、本文と特設のページが2ページにわたって掲載されています。あと、日本文教出版、それから自由社、育鵬社については、本文もしくは本文と写真という掲載になっています。

それから、日常の社会生活と関連づけながら、具体的事例を通して、政治や経済に関わる制度や仕組みの働きがわかるようなという観点から、現代社会における具体的な事実、事件や課題を取り上げている箇所が多い、そういった教科書は、東京書籍と教育出版が最も多く、次いで日本文教出版、育鵬社となっています。

それから、課題の探究に関する学び、探究学習についてですけれども、東京書籍、これはほかの教科書もそうですけれども、項目ごとに学習課題の設定をするとともに、章ごとに大きくくりで探究課題を示して、その最後に探究のステップを置いて、単元全体の指導がしやすいように工夫されています。

教育出版は、各章の「学習のはじめに」で内容に関する課題を提示して、生徒たちが作業したり、学習の見通しを持てるというような、そういった工夫があります。

日本文教出版は、各編の最初に「漫画から編の『見方・考え方を捉えよう』」として、主には文化祭など、生徒の身近なテーマから公民的分野の内容に迫るような工夫をしています。

こういったところを総合して、特に起業の取扱い、それから、探究的な学習への配慮、この観点から、第一候補を東京書籍、第二候補を教育出版にしました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 最後に私の意見を申し上げます。

どの教科書も巻末に資料として法令集を記載しまして、根拠を明確にして論議できることに加え、特色がある構成がなされているような印象を受けました。

そこで私は、最終的に東京書籍と帝国書院の2つが候補として残りました。今後更に重視されていく深い学びの実現を念頭に置いて、これらを重視した言語活動、すなわち説明や伝え合い、要約などを多く取り上げている2社について比較、検討しました。その結果、帝国書院を採択したいと思います。

帝国書院は図版が大きく見やすい工夫、それから見開き2ページを1単位時間での指導、それからルール決定の方法など身近な事例を取り上げて、実生活の中で思考を促しながら、高い市民性を育てる意図が見られました。第2節では貧困解消と環境保全を取り上げ、その上でSDGsの目標の視点に立って、持続可能な地球環境問題や資源エネルギー問題等を提示している。それからレポート作成等の手法、これは非常に意義のあることを紹介して、主体的な学びの実現を目指している点などがその理由になります。

それでは、ほかにご意見やご質問ございますか。よろしいですか。

それでは社会、公民的分野について、原案どおり帝国書院を採択するということにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) 続いて、地図について説明をお願いいたします。

○統括指導主事(吉田周平君) 社会、地図につきましてご報告いたします。教科書の発行者は2社となります。2社ともそれぞれ工夫を凝らした内容となっておりますが、特に鳥瞰図など、様々な地図を豊富に提示することによって、生徒たちが地理的分野、歴史的分野、公民的分野の3分野で地図帳が活用できるような形態となっているとのことでした。各社とも色遣いがカラフルであり、地図中の文字の配置などが工夫されているとの報告がございました。地図については以上です。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○教育長(浅沼昭夫君) 説明が終わりました。それでは日野委員、お願いいたします。

○委員(日野佳昭君) 帝国書院は大きく見やすい、立体的である、様々な資料・統計もあり、内容もよりわかりやすいことより、帝国書院を推薦します。以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) それでは平原委員、お願いいたします。

○委員(平原 保君) 私は帝国書院を推薦します。

巻頭の「地図帳の使い方」として、基本的な見方・使い方がわかりやすく解説されています。続いて、「国土地理院の地形図」で、実際の地形図や読み取り方について紹介されています。また、二次元コードから地形図の電子版などを閲覧することができるようになっています。2点目として、「世界の環境問題」「世界の生活・文化」「日本の農業・水産業」「日本の自然災害・防災」など、資料を扱っているページには学習課題が提示されていて、生徒が視点を定めて活用することができます。3点目に、鳥瞰図が数多く記載されており、生徒が地形や高低差などを視覚的に捉えて、地形の特色や土地利用、防災などについて思考・判断する学習ができます。以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) 新島委員、お願いいたします。

○委員(新島 香君) 私は、地図帳は帝国書院を推薦させていただきます。

理由ですが、教科書自体のサイズが大きく、地図が見やすかったです。また、地図上の文字も見やすい文字でよかったと思います。災害や防災についての資料が多くあり、また、デジタルコンテンツもよかったです。以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) 増淵委員、お願いいたします。

○委員(増淵達夫君) 私は地図帳、第一候補は帝国、第二候補は東京書籍としました。

まず、地理的分野では、世界と日本の地域構成、これが学習の冒頭に位置づけられていますが、これは世界と日本の地理的認識の座標軸を形成することを意図し、地図の読図・作図、こういった地理的技法の基本を身につけることを意図しているということで、それに耐え得るものと考えました。また、新旧の地図の比較、関連づける学習、こういったことも重視されているのが今回の学習指導要領の内容です。

この地図帳は、地理的分野だけではなくて全ての社会科の学習で活用するということから、多様な観点で活用できるものと考えました。

こうやって分析してみると、地図の種類ですとか、基本図の図法の種類、世界及び日本の資料図、それから目的別分類、グラフ、写真、図表、いずれも東京書籍に比べると、帝国書院が圧倒的に内容が多いということで、様々な用途に耐え得るという観点から、帝国書院を第一にしました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 最後に私の意見を申しあげます。私は、社会科地図は帝国書院を採択したいと思います。

2社を比較してみても大きな違いはないのですが、昨年の小学校の採択のときも感じましたが、例えば関東地方で比較してみますと、地図上の地名や河川名が、他に比べて帝国書院のものは見やすい作りになっています。より具体的には、東京都や大阪など都市部の込み入った地名が読みやすい。また、山脈の高度がより立体的になっているといったこと。それから東京都周辺の地形、水と人の関わり、防災ということで、府中市を取り巻く地形、防災の歴史を取り上げていること。それから、資料図として鳥瞰図の方法で地図への親しみを視覚的に情報化することができる。そういう特徴があったように感じました。以上です。

ほかにご意見やご質問ございますか。よろしいですか。

それでは地図について原案どおり帝国書院を採択するということにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） 数学について説明をお願いいたします。

○統括指導主事（吉田周平君） 数学につきましてご報告いたします。教科書の発行者は7社となります。各社とも系統的な内容で構成されており、各社ともに学び方として3つの特色があるとの報告がございました。第一は、理解・定着・活用・進化の学習過程を重視していること。その中でも特に主体的に対応できる「深い学び」を象徴するものとして、全体での学び、個の学びについて工夫がされている。第二に、数学的な見方、考え方についての記述がこれまでの教科書より多くなっている。実際に生徒たちがどのように考えていけばいいのか、きめ細やかに書かれている。第三に、算数、数学の系統性が意識されており、振り返りの内容を導入の前に掲載している教科書が多くあるとのことでした。

数学については以上です。ご審議のほどよろしくをお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。日野委員、お願いいたします。

○委員（日野佳昭君） 私は1番に啓林館、2番目に東京書籍を推薦します。

東京書籍と啓林館は、計算方法、図などの説明がわかりやすい。その中で啓林館は、「学びを確かめよう、身につけよう、学びを生かそう、力をつけよう」と段階的に練習問題があるのがよかったです。

2番目の東京書籍も、各単元の最後に「深い学び」があり、発展的な理解が深まり、理解しやすく思いました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 私は第一に東京書籍、第二に大日本図書を推薦します。

東京書籍については以下6点から推薦しました。

1点目、1年生の教科書では、算数から数学へという章が特設され、数学の学び方やノート作りについても丁寧に扱っています。2点目、各学年の生徒が主体的に問題解決的な学習に取り組み、既習の知識と関連づけて新たな知識を理解したり、技能を活用したりできるように構成されています。3点目、深い学びには「規則性に着目して式に表す」「数量の関係に着目して式をつくる」など数学的な見方・考え方が端的に示され、生徒が数学の問題や身の回りの問題を解決するときに活用できるように工夫されています。4点目、「学びを振り返ろう」には、生徒が問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を育てるた

めに有効です。5点目、節末には基本の問題が出題され、基礎基本を着実に身につけられるようになっています。また、B問題では、章の内容を応用したり、活用したりする力をつけられるように構成されています。6点目、デジタルコンテンツの一覧表もあり、非常に充実していました。

続いて大日本図書について、以下5点です。3年間を通して、数学の学び方やノート作りについて、一貫した指導ができるようになっています。2点目、事象を数理的に考察する活動を重視し、数学的思考力・表現力、それらを活用して考え判断する能力を育むことが重視されています。3点目、学びにプラスは学習を振り返ったり、広げたり、活用したりする課題が提示されていて、数学的な表現力を高めたり、視点を増やしたり検証したりして、生徒が数学の問題や身の回りの問題を解決する能力を高めることにつながります。4点目、「つながる・広がる・数学の世界」や「発見、仕事のなかの数学」は、生徒が数学に興味関心を持つ機会となり、数学を生活や学習に生かそうとする態度の育成につながると考えられます。また、章末の問題も充実しているということから推薦しました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 私は、数学は第一に大日本図書、第二、啓林館を推薦させていただきます。

理由ですが、大日本図書はまず、例題となる設問が生活上活用し得る問題となっており、数学を学ぶ意義が感じられるところがよかったです。同じく巻末に「MATHFUL（マスフル）」という、数学が生活に届く具体的な内容が記載されていて、興味深く見られるのではないかなと思いました。次に、巻末には小学校算数の振り返りが丁寧に記載されているところ、また、同じく巻末ですが、学んだ内容は要約され切り取ることができ、違う学年でも活用できるところがよいと思いました。デジタルコンテンツを開くと他の教科、理科なども見られて、大変便利だと感じました。

次に啓林館です。こちらも章末問題にどのページで学んだ内容か記載があり、振り返りによいと思いました。また、デジタルコンテンツでプログラミング入門がついているところがよかったです。また、巻末の「力をつけよう」問題では、入試問題にチャレンジとして1問入試問題があり、挑戦しようという気持ちが芽生えていいのではないかなと思いました。デジタルコンテンツ内では練習問題の解答が見られるのですが、間違えても楽しみながら学習できる内容でよかったです。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 増淵委員、お願いいたします。

○委員（増淵達夫君） 数学は、私は、第一候補は大日本図書、第二候補は学校図書としました。

今回の学習指導要領で数学の主な改訂点として、「数学と人間との関わり」ですとか、「数学の社会的有用性についての認識が高まるように配慮する」ということが求められています。それから、「データを用いて問題解決のために必要な基本的な方法を理解する」ということ、そういった観点から統計的な内容が充実されています。

それから、全国学力・学習状況調査の結果ですけれども、平成31年度に小学校6年生、中学校3年生をやった結果ですが、府中市の子どもたちについては、小学生は数と計算ですとか、量と測定、これに課題が見られたという報告があります。それから、「示された式の

意味や計算の仕方を読み取って解釈したり、説明したりする」、こういったことへの指導が必要だと示されていました。それから中学生については、「関数について課題が見られる」「数学的に表現したことを事象に即して解釈することについての指導が必要である」「学習したことを活用して、粘り強く考えて、生活や学習に生かすことが大切である」というようなことが指摘されています。

こういった観点から教科書を分析すると、日常の事象や社会の事象を取り扱っている箇所、これが最も多い教科書は大日本図書でした。次いで学校図書、教育出版の順番です。それからデータの活用のページが多い教科書は、学校図書、教育出版、日本文教出版という順番です。それから、府中市内の小学生が数と式に課題があるというところで、「数と式」に関するページを見てみると、大日本図書と学校図書が最も割合が多い配分になっていました。それから、例題・問題数が多い教科書は大日本が一番多くて、次いで学校図書、啓林館という順番です。それから、数学の社会的有用性を子どもたちが気づけるようにするための編集上の工夫ですけれども、大日本図書については、章の初めに「数の世界の広がり」、例えば、サッカーにはどんな数があるかなということで、チームの人数、スタジアムの観客、ボール保有率、得失点差というふうに、サッカーの中で数学がどんなふうに使われているか。それから「時間とともに変わるもの」ということで、給水時の距離、気温など、関数と日常生活の関わり。それから「発見！仕事の中の数学 社会にリンク」というコーナーでは、パイロットの仕事と数学の関係、地震や津波・防災と数学の関係、アーティスト、これはオリンピックエンブレムを開発した方ですけれども、それと数学との関係、スポーツデータアナリストと数学との関係など、日常の事象や社会の事象と数学との関係を生徒たちがわかりやすくなるような編集上の工夫があると思います。

学校図書も同じような工夫がありました。例えば、章の初めに「『一』のついた数ってなんだろう」ということで、サッカーワールドカップの順位表ですとか、男子100メートルにおける順位とか、こういったことで数学への興味、関心を高めるような工夫がありました。

このようなことを総合して、第一候補を大日本図書、第二候補を学校図書としました。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、最後に私から意見を申し上げます。

私は啓林館を推しました。各ページにQRコードを設けていますので使いやすいのかなと。家庭における予習・復習、練習問題等々につながればいいかなと思った次第です。それから、教科書の作りが、みんなで学ぼう編は従来の縦長横開き、それから、裏表紙からの自分から学ぼう編が横長上下開きになっていますね。大変ユニークな作りになっているということで、一定の変化をつけながら練習問題など、生徒の関心や意欲を引き出す工夫がなされているなと感じました。それから、ページの下には様々な場面での数学的な見方、考え方が生かせるヒントもございました。

そして、次の候補としては東京書籍もよいと思ったのですが、改めて評価の高かった大日本を見直しましたところ、生活に即したデータの採用、活用・探究のページに加えて、「仕事の中の数学」など、新学習指導要領を踏まえた内容となっており、こちらを採択することに異議はございません。私からは以上です。

ほかにご意見やご質問ございますか。よろしいですか。

それでは、数学についてはかなり分かってはくれましたけれども、原案として挙げました大日本図

書を採択するということにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○**教育長(浅沼昭夫君)** 続きまして、理科の説明をお願いいたします。

○**統括指導主事(吉田周平君)** 理科についてご報告いたします。教科書の発行者は5社となります。SDGs、持続可能な開発目標の観点を意識しながら、学習の振り返り、単元のつながりなどで工夫がなされている。ユニバーサルデザインにつきましては、教科書の見やすさを追求し工夫を行っており、各社の特徴が表れている。また、デジタルコンテンツの活用における一番の特徴として挙げられるのは、探究的な取組を重視している点であり、主体的に学習する生徒の段階に応じた学習への対応について、各社で非常に特色が出ているとの報告がありました。理科については以上です。ご審議のほどよろしくをお願いいたします。

○**教育長(浅沼昭夫君)** 説明が終わりました。日野委員、ご意見ををお願いいたします。

○**委員(日野佳昭君)** 理科は1番に大日本図書、2番目として東京書籍を推薦します。

大日本図書は、問題の発見から考察、解説という探究的な展開がわかりやすい。科学史があるのもよい。また、課題・実験がわかりやすく、まとめ、単元末問題、読解力問題の構成もよくまとまっています。東京書籍は、問題の発見から結論、振り返りという探究的な展開がわかりやすい。巻末の科学史年表などもよい。図・写真が見やすい。確かめと応用が理解しやすいと思います。以上です。

○**教育長(浅沼昭夫君)** 平原委員、お願いいたします。

○**委員(平原 保君)** 私は第一に大日本図書、第二に東京書籍を推薦します。

まず大日本図書についてですが、「理科の学習の進め方」が明示されていて、課題把握、実験や観察、考察等見通しをもって学習できるよう配慮されています。続いて、理科室のきまりとして、楽しく安全に実験するための心構えや注意が具体的に明記されています。単元の冒頭に見開きページで「これまでに学習したこと」が示してあり、生徒が既習事項について確認をすることができます。また、小学校で学習した内容と学年が示してあり、小中学校の連続性のある学びへとつなげることができます。3点目、実験について、目的・着眼点・必要なもの・手順・結果の整理のポイントまで1ページにわかりやすく表記されていて、活用しやすいように表示されています。4点目、トピック「基礎操作」には、実験器具の正しい使い方が明示してあり、自然を探究するための基礎技能を着実に習得できるように配慮されています。5点目、各章ごとに章末問題が出題されており、段階的に基礎的な事項について抑えることができるようになっていきます。6点目、QRコードを活用して、基本操作の動画や学習に役立つ情報ウェブサイトを見ることができます。

次に、東京書籍についてですが、縦長サイズ版の教科書で、写真や図解・イラストなども豊富に掲載してあります。特に単元の導入部には、全画面にインパクトのある写真を掲載して、生徒が自然の事物や事象に興味関心をもって学習に取り組めるような工夫がされています。2点目、巻頭に探究の流れと教科書の使い方が明示してあり、各単元の学習に見通しをもって取り組めるように構成されています。3点目、トピック「基本操作」には、実験器具の正しい使い方やスケッチの仕方など明示されており、各学年に応じて自然を探究するための基礎技能を着実に習得されるようになっていきます。4点目、Dマークコンテンツはとても見やすくわかりやすく、各単元のポイントとなる事項についてコンテンツが充実していま

す。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 理科ですが、私は第一に大日本図書、第二に啓林館を推薦させていただきます。

理由ですが、まず大日本図書は、各ページともふんだんに写真等の資料があり、解説や課題のページなど見やすく、わかりやすかったです。それから、単元の初めに「これまでに学習したこと」として、小学校で習った内容がわかりやすくまとめて表示されているのがよかったです。単元の終わりに、まとめ・単元末問題・読解力問題とそろっていて、確認ができるのがいいと思いました。また、デジタルコンテンツは全学年分見ることができるところが便利です。319ページに「暮らしを支える科学技術」のページというところで、府中市の茅葺き屋根が紹介されていたのもよかったと思います。

次に啓林館ですが、こちら目次が見やすいなと思いました。また、科学コラムには様々なラボがあり、生活に密着した内容が掲載されていて、興味を引かれました。また、章末の学習のまとめと力試し問題は、問題数も多くいいなと思いました。それから、デジタルコンテンツは全学年分見られるところが大変便利でした。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 増淵委員、お願いいたします。

○委員（増淵達夫君） 理科について、私は、第一候補は学校図書、第二候補は啓林館としました。

学習指導要領の主な改訂点としては、放射線に関する内容、それから、自然災害に関する内容、生物の分類の仕方に関する内容、こういったことの充実が図られています。そして、以前から引き続きですけれども、指導計画の作成と内容の取扱いのところで、理科の学習過程の特質を踏まえ、理科の見方・考え方を働かせながら、見通しをもって実験・観察を行うことができるようにする。そして科学的に探究する学習活動の充実、こういったことですか、それから、今回特徴的なところで日常生活や他教科との連携を図る、こういった辺りが指導要領の改訂の大きなポイントになるかと思います。

この観点で教科書を分析すると、観察・実験を取り上げている箇所、これは学校図書が一番多く、その次が東京書籍、大日本という順番でした。このうち、大日本と教育出版の教科書は、「科学技術と人間」という單元には観察・実験は取り上げられていませんでした。

それから、日常生活や社会との関連に関する内容、これについては啓林館、大日本図書、東京書籍が充実していると思いました。

編集ですけれども、学校図書については「なぜ理科を学ぶの？」とか「理科で何を学ぶの？」「理科を学ぶとどうなるの？」など、これをこの教科書では「理科のトリセツ」というコーナーになっていますが、これらが教科書の冒頭に置かれていて、理科の学習の意義、これを理解させるページが設定されていました。それから、編集が一貫して「探究・実験・結果考察・振り返り」と、実験や観察を中心とした探究的な学習の流れに沿って教科書が編集されていると思いました。それから「何ができるようになったか」とか「サイエンスカフェ」「学び続ける理科マスター」「学びを日常に生かしたら」などのコラムや特設のページが充実して、理科の学習と実際の生活を結びつけることができるような、そういった編集上の工夫があると思いました。

啓林館についてですけれども、観察・実験の掲載数は他社に比べると決して多いほうではありませんが、必要な内容は確実に掲載されていると思いましたが、科学コラムの「科学で部活動をもっと楽しく」とか「科学で料理をもっとおいしく」、それから、「科学で災害に備えよう」など、日常生活や社会との関連に関する内容として、大変興味深い内容が取り上げられていると思いました。

以上を総合して、第一候補を学校図書、第二候補を啓林館といたしました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、最後に私の意見を申し上げます。

私は先生方が使い慣れている東京書籍と、大日本図書を中心に検討いたしました。そして結論としては、大日本図書を採択したいと思います。

その理由ですが、前回採択の際に意見を申しあげた点が改善されて、更にブラッシュアップされているなということを感じ取りました。具体的には、細胞分裂の観察のところをぜひプレパラートではなくて、写真ではなくて、生徒に実感させてほしい、観察させてほしいという意見を申しあげたのですが、この点が改善されている。生徒の個別の観察にふさわしいような、玉ねぎの根ではなくて、種子を使った観察方法に変わっているということ。これが大きく変わったところかなと思いました。ぜひ、この時代になって、子どもたちに生命の不思議さという点からも細胞分裂、染色体を観察させたいという思いを強くもっていますので、ここが改善されたということの評価したいと思います。そしてこうやって申しあげますと、この観察でどの時刻に試料を採取すればいいのかといったことも記載している教科書もありませんでしたもので、これは中学校に必ず生物以外の専門の先生方もいますので、指導書等々に書いていただければ大変ありがたいなと思っています。

それから、併せて関連事項として、学習指導要領は、これは限った解釈ではありますが、演示実験のDNAの抽出、これは簡単な方法で学校はやらされていますが、それを載せていただきたいと要望を申しあげましたが、今回は大日本図書で演示実験として取り上げていただいているという点も目を引かれました。コロナ禍の中で、ワクチンなど先端技術として遺伝子工学の成果が身近に報告される状況になって、生命の不思議さ、命の尊さなど、道徳の時間に限らず健全育成の諸課題に向き合う意味でも大変重要と考えています。

併せまして、学校における性教育の必要性に鑑みまして、ヒトの授精についても図版を用いて大変わかりやすく、丁寧に扱っているなという点も好ましいと思い、大日本図書を推します。私からは以上です。

ご意見やご質問ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは理科については、原案どおり大日本図書を採択するということにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） 音楽、一般についての説明をお願いいたします。

○統括指導主事（吉田周平君） 音楽、一般につきましてご報告いたします。教科書の発行者は2社となります。2社とも生徒にとってわかりやすく、親しみやすい内容で構成されているとの報告がございました。各題材にしっかりと目標が明記されており、記入しやすい教科書、記入しやすい楽譜となっている。取扱う曲についても、2社とも生徒にとって親しみやすい曲が取り上げられているなどの工夫があるとのことでした。

音楽、一般については以上です。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。日野委員、お願いいたします。

○委員（日野佳昭君） 音楽、一般は、調査研究資料では教育芸術社を推薦する意見が多いようですが、私は教育出版を推薦します。

教育出版は單元ごとの目的がわかりやすく、見やすい構成になっています。交響曲、雅楽、オペラ、観劇文楽などの説明がわかりやすく、見やすいです。日本と西洋の音楽の歩みがとても興味深かったことが推薦の理由です。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 私は教育芸術社を推薦します。

第一に、表現「歌唱」教材の曲が豊富であり、我が国の自然や四季の美しさ、文化や日本語の持つ美しさを味わえる教材「浜辺の歌」「荒城の月」などを始め、外国の曲、合唱の曲「大地讃頌」「旅立ちの日に」など、幅広いジャンルから生徒の心に響く名曲が掲載されています。鑑賞曲については、我が国の郷土の伝統音楽と諸外国の音楽の中から、音楽を愛好する心情を育ていけるよう選出されているように思います。また、鑑賞するに当たって楽曲や作曲家たちについての説明、その音楽の特徴などがわかりやすく表記されています。3点目、歌舞伎や文楽など伝統文化、世界の諸民族の音楽、ポピュラー音楽などがわかりやすく取り上げられており、生徒が音楽と生活との関わりをもって、生涯にわたって音楽文化に親しんでいけるよう工夫がされています。4点目、二次元コードから学習に役立つコンテンツを活用して、楽曲の解説や演奏家のホームページを閲覧することもでき、教室での学習を補充・深化することができると思います。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 音楽、一般は、私は教育芸術社を推薦いたします。

理由ですが、ワークシートが多くあり、学びの確認ができるところがよいと思います。また、楽器、舞台、技法・手法など写真で紹介されていて、大変わかりやすかったです。また、合唱曲がたくさん紹介されていて、府中の中学校には合っていてよいと思いました。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは増淵委員、お願いいたします。

○委員（増淵達夫君） 音楽、一般、私は、第一候補は教育出版としました。

学習指導要領の主な改訂点として、歌唱、それから器楽の教材を選択する際の配慮事項として「生活や社会において音楽の果たしている役割が感じ取れるもの」、これが新たに学習指導要領で示されています。それから、歌唱や器楽の指導において、我が国の伝統的な歌唱や和楽器を使う際の配慮事項として「生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるよう工夫する」、こういったことも新たに示されています。

こういった観点から教科書を分析すると、両社の教科書に生活や社会において音楽の果たしている役割、そういったことは書かれていますが、教育出版については演奏者のアウトリーチ、それから音楽を通じた教育活動、音楽療法、こういったことが写真入りで紹介されていました。それから、我が国や郷土の伝統音楽の曲数と資料が掲載されたページですけれども、これは教育出版が表現の曲数では多くなっています。鑑賞の曲数では教育芸術が多くなっていますので、大きな差異とまで言えないかなと思いました。教育出版は、音についての物理的な側面からの学習ができる内容を設定しています。これは、教科横断的なカリキュラ

ムマネジメントへの具体的な配慮ということで評価できるかなと思いました。

こういった新しい学習指導要領の改訂への配慮という観点から、私は第一候補は教育出版といたしました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 私の意見を申し上げます。2社のうち、教育芸術社を採択したいと思います。

その理由ですが、第一学年で合唱の姿勢と呼吸、いずれについても見えました。そして、変声期の解説があり、イラストも大変わかりやすい。それから合唱曲では、全体の構成・歌い方の注意点などについての解説が丁寧であると。それから楽典ではなくて「音楽の約束」という言葉で、わかりやすく指揮のポイントも取り上げているということ。それから合唱に加えて、創作などの学習活動にも配慮されている。それから最後に、世界及び日本のポピュラー音楽についてジャンル分けして解説があり、音楽活動に親しみを持たせているところも目を引きました。

私からは教育芸術社を推したいと思います。

ご意見やご質問ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは2社のうち、2つからですけれども、音楽、一般については原案どおり、評価の高い教育芸術社を採用するというご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて音楽、器楽合奏について説明をお願いいたします。

○統括指導主事（吉田周平君） 音楽、器楽につきましてご報告いたします。教科書の発行者は2社となります。2社とも生写真が多く、ユニバーサルデザインを意識したフォントや色遣いが生徒にとってわかりやすい内容となっているとの報告がございました。

音楽、器楽については以上となります。ご審議のほどよろしくをお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりましたが、日野委員、ご意見をお願いいたします。

○委員（日野佳昭君） 器楽合奏は、どちらの教科書もわかりやすく、よくできていると思います。一般の教科書と同じ出版社が使いやすいと思います。器楽合奏も教育出版を推薦します。

○教育長（浅沼昭夫君） 続きまして平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 私は教育芸術社を推薦します。

和楽器や諸外国の楽器について、バランスよく取り上げられています。目次では楽器ごとに色分けされていて、各ページの上部に目次と同じ色分けがされていて活用しやすい。各楽器の特徴を捉えるよう、楽器全体と細部の写真が掲載されています。また、演奏形態別の曲数もバランスよく取り上げられています。また、インターネットでの各楽器の専門家について紹介が見られる二次元コードがついていることがよいと考えました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 私は、器楽合奏は、教育芸術社を推薦いたします。

理由ですが、楽器の演奏方法など、写真でわかりやすく紹介があるところがよかったです。また、各楽器の練習曲が多く用意されていて、そこもよいと思いました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 増淵委員、お願いいたします。

○委員（増淵達夫君） 器楽について、私は、第一候補は教育出版にしました。

教科書を分析すると、和楽器の取り上げ方は両社同数でした。掲載曲数は教育出版が多かったです。教育出版は「何が同じで何が違う」というページを設けて、吹く楽器、それから、弾く楽器、各々について音の出る仕組みですとか、構え方に着目して、音色等、特徴を考えさせる教材が掲載されていました。こういった点を評価して、教育出版を第一候補としました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 最後に私からですが、音楽、器楽合奏は、音楽一般と同様に、楽譜などが読みやすく、学校で使うこともできると同時に、音楽一般と同じ出版社がいいのかなと思ひまして、教育芸術社を推したいと思ひます。私からは以上です。

ご意見、ご質問等ございますか。よろしいですか。

これも2つに分かれましたけれども、音楽、器楽合奏について、原案どおり教育芸術社を採択するということにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは続きまして、美術について説明をお願いいたします。

○統括指導主事（吉田周平君） 美術につきましてご報告いたします。教科書の発行者は3社となります。表現の学習において、生徒自ら強く表現したいことを心の中で思い描いたり、豊かな発想で子どもたちが構想したりするために、いろいろな作品の方向性について写真を交えて教科書に掲載している。資料ページが充実しており、安全指導に関する内容も増えている。資料集がなくても、個人での学習を進められる仕様となっているとの報告がございました。美術については以上です。ご審議のほどよろしくをお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。日野委員、ご意見をお願いいたします。

○委員（日野佳昭君） 美術の調査研究資料では、先生方は光村図書を推している方が多いようですが、一番には開隆堂を推薦します。

絵や彫刻、鑑賞、デザインや工芸で学ぶことがよく書かれております。作品を作る手順がとてもわかりやすいです。学習を支える資料もわかりやすく、まとめの資料も理解しやすいと思ひます。しかしながら、日本文教出版と光村図書も大きな差はなく、理解しやすく作られていると思ひます。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 私は第一に光村図書、第二に開隆堂出版を推薦します。

光村図書については、以下の5点から推薦しました。

1年生の巻頭において、中学校の美術で学ぶことについて、見通しをもって取り組むように工夫されています。2点目、表現と鑑賞ごとのねらいを題材名の下に「目標」としてわかりやすく示してあり、生徒が目当てをもって主体的に学んでいけるよう配慮されています。3点目、身近なものを見つめて感じ取ったことを描いたり、生徒同士で作品を鑑賞したりすることで、身近な生活と美術を結びつけていくためのよい機会が設定してあります。4点目、日本の美術作品が豊富に掲載されており、生徒が自身の経験や社会科の学習等と結びつけて、日本美術文化に興味関心をもって関わる資質・能力が育まれていくことが期待できます。5点目、生徒が対話しながら鑑賞している写真が数多く掲載されています。また、二次元コードを活用して、音声ガイドで作品の解説を聞きながら鑑賞することができます。

続いて、開隆堂出版については、以下4点から推薦しました。

「学びの地図」が掲載されていて、生徒が興味をもって美術の学習に取り組んでいけると考えました。表現と鑑賞ごとのねらいを題材名の下に「学習の目標」として、3つの観点からの目標が示してあり、教師が観点別のねらいを明確に捉えて授業を進めることができるよう配慮されています。3点目、日本の美術作品や外国の美術作品が豊富に掲載されています。また、教科書サイズがワイド版で、作品の特性や余裕のある紙面構成により、鑑賞の学習に効果的と感じます。4点目、二次元コードを活用して、教科書に掲載された作品と関連する美術館のホームページにつなげることができるようになっています。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 美術は、私は第一に光村図書、第二に開隆堂を推薦させていただきます。

光村図書ですが、学習を支える資料が見やすくよかったです。また、生徒作品には、「作者の言葉」として様々記載されているところがよかったですと思います。2、3年生の教科書が一冊となっていたので、使いやすいと感じました。

次に開隆堂です。学びの資料で漫画やアニメーションについて2ページにわたり掲載されていて、生徒が興味をもって見られそうだと感じました。日本語指導が必要な生徒への対応として、7カ国語に対応したCDがついているということで、先生方にとっても使いやすいものではないかと思いました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 増渕委員、お願いいたします。

○委員（増渕達夫君） 美術は、私は日本文教出版を選びました。

学習指導要領の改訂のところで、「美術の働きや美術文化」に関する事項では、生活や社会と文化は密接に関わっていることですか、従前の生活を美しく豊かにする美術の働きに関する鑑賞と、美術文化に関する鑑賞を大きく一つにまとめられるなどの改善が行われています。それから、思考力・判断力・表現力を高めるために言語活動の充実、この配慮もなされています。

教科書を分析すると、美術の働きや美術文化に関する事項については、日本文教出版が一番記述が充実していて、開隆堂、光村と続くかなと思います。それから、表現に関する内容の題材数、これも日本文教出版が最も多く、開隆堂、光村の順かだと思います。それから表現に関する技法ですか、材料の取扱い、これを示しているのも日本文教出版が一番多いかなと思いました。

そして、日本文教出版の中身をもう少し見てみると、「何でこれが美術なの？」とか「季節を楽しむ心」、これは和菓子を例に出していますけれども、それから、「暮らしやすさのデザイン」、「笑顔が生まれる鉄道デザイン」など、生活や社会と文化は密接に関わっているということを視覚的に生徒たちに気づかせる、そういった工夫が施されていると思います。第一候補を日本文教出版としました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 私の意見を申しあげます。私は日本文教出版を推薦したいと思います。美術に強い生徒作品を数多く紹介して創造性を刺激し、美術の世界、その面白さ、楽しさなど、発想を広げている点があります。また、美術との出会いとしてアニメーション、生活の中のデザイン、身近な素材を使つての工芸など、中学生の興味関心を高める構成になっていたと感じて、日本文教出版を推薦したいと思います。私からは以上です。

ほかにご意見やご質問ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは美術ですけれども、これも大きく分かれたのですが、やや日本文教出版の評価が高いと理解しましたので、原案どおり日本文教出版を採択するというところでよろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) それでは続きまして、保健体育について説明をお願いいたします。

○統括指導主事(吉田周平君) 保健体育につきましてご報告いたします。教科書の発行者は4社となります。各社とも、小中学校の連携だけではなく、小学校、中学校、高等学校へのつながりを意識した内容の構成となっている。各社ともSDGs、持続可能な環境目標の観点に関することや、感染症についての記述が増えており、各社ごとに二次元コードやデジタルコンテンツを活用することで、生徒が学びやすくなるよう工夫されていることが特徴であるとの報告がございました。

保健体育については以上です。ご審議のほどよろしくをお願いいたします。

○教育長(浅沼昭夫君) 説明が終わりました。それでは日野委員、ご意見をお願いいたします。

○委員(日野佳昭君) 保健体育は、1番に学研教育みらい、2番目に大修館書店を推薦します。どちらもストレスへの対処法などわかりやすく書いてあります。その中で学研教育みらいは、感染症の単元でいじめ、人権についても言及していることより、学研教育みらいを1番として推薦します。以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) 平原委員、お願いいたします。

○委員(平原 保君) 私は第一に大修館書店、第二に大日本図書を推薦いたします。

初めに大修館書店については、以下の5点から推薦しました。

「つかむ」「身に付ける・考える」「まとめる・振り返る」と構成されていて、見開きページの学習過程と資料がわかりやすくレイアウトされています。2点目、1年「調和のとれた生活」には、府中市立学校給食センターと府中市立中学校の給食の様子を紹介する写真と記述があり、生徒が興味関心をもって食事と健康を考えることができます。3点目、1年「心身の発達と心の健康」について、特に心の健康についての扱いが丁寧に取り上げられています。さらに、欲求やストレスの項では、不安や悩みへの対処法を学ぶことができ、生涯を通じて心身の健康の保持増進につながると考えられます。2年生「生活習慣の健康への影響」について、喫煙、薬物乱用などを避ける対処の仕方について、生徒が正しい知識や判断力、具体的な対処方法を身につけることができると考えました。5点目、3年「感染症の予防と健康を守る社会の取組み」についてわかりやすく示されており、ウィズコロナの新しい生活様式を考える上でも大変参考になると思います。

続いて、大日本図書については、以下4点から推薦しました。

見開き2ページに、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現し、健康を保持増進するための全体像が図式で示されており、生徒が中学校3年間の学習に見通しをもって主体的に学べるように工夫されています。また、見開き2ページに「私たちの生活とスマートフォン」が掲載され、スマートフォンやSNSの利便性ととともに、使い過ぎによる健康への悪影響など、生徒にわかりやすく保健体育の視点から取り上げられています。3点目、2年「薬物乱用と健康」では、写真やイラスト、マトリックスが効果的に示されていて、薬物乱用の

害や社会的影響などが理解しやすいように工夫されています。また、生活習慣病の起こり方や受動喫煙の被害など、健康な生活と病気の予防など、生徒が生涯を通じて健康の保持増進への意識が高められるように工夫されています。4点目、心肺蘇生法の流れや手順について3ページにわたり写真と解説がされていて、生徒が正しい方法を身につけられるように配慮されています。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続きまして新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 私は第一に大修館書店、第二に学研教育みらいを推薦させていただきます。

大修館ですが、まず文字が大きく、写真やイラストがふんだんに使用されていて読みやすく、わかりやすかったです。また、「薬物乱用と健康」のページでは薬物が写真で紹介されていて、どのような形状のものか子どもたちにもわかってよいと思いました。

また、ストレスへの対処の仕方とリラクゼーションの方法について、ページ数をとってわかりやすく記載されているところがよく、さらに、クローズアップとして、悩みへの対処法が記載されているところがよいと感じました。

次に学研教育みらいです。こちらも文字が大きく、読みやすかったです。また、避難生活時に必要な体力についてや、避難生活が長引いたときに起きる健康問題点が運動することで解消されるということが、具体的な運動例で示されているところがよいと思いました。

ストレスへの対処の仕方等リラクゼーションの方法について、こちらも記載されていてよかったと思います。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 増淵委員、お願いいたします。

○委員（増淵達夫君） 保健体育は、私は第一候補を学研教育みらい、第二候補は大修館を考えました。今回の学習指導要領の主な改訂点として、1つはがん教育について新たに加わったことがあります。それから、2点目としては、18歳未満の子ども自殺の防止の観点からストレスの問題、これが大変重要になってきていると思いますので、このストレスについてがあります。それから、あとは一昨年度、性教育に関する議論が都内で大分高まりましたので、性教育の充実についても私は着目しました。

こういった観点から教科書を分析したところ、がん予防等に関する記述、これについては大日本と大修館、これが最も充実していると思いました。

それから、ストレスの対処法については大日本と大修館、そして次に学研です。それから、性教育については、東京書籍、大修館。それから性的マイノリティの問題、これが東京書籍と学研には、この性的マイノリティの問題が取り上げられていました。それから、大修館で、府中の学校給食センターが取り上げられていました。

こういったことを総合して、ストレスの対処、性的マイノリティの記述もあるということで学研を第一としましたが、第二候補は大修館といたしました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、私から意見を申しあげます。

臨時会では、4社の中から保健体育は大日本を採択したいと申しあげました。その理由ですが、現在で最も関心が高い感染症について、感染症の病名、病原体の電子顕微鏡写真、症状と感染経路などについて丁寧に扱われていること。それから、イラストを多用して視覚に訴えながら、症状や予防、生活習慣について解説しているという点。2つ目、思春期の心の

変化では、性に対する中学生の持つ関心の内容データを挙げて実態の教育を図るなど、心情に配慮した取り上げ方である。それから実習としては心肺蘇生法を取り上げて、AEDの使い方も写真でわかりやすく示している。作りとしては見開きの左ページで文字、右ページではダイナミックに分けた構成になっていてわかりやすい。それから欄外に知識として、学習内容に関連づけた内容を示しているという点で、大日本図書を挙げました。

そして、臨時会での皆様のご意見をいただいた後、改めて大修館を見直しました。しっかり各学年とも体育業務と連携して、体育実技と分けた編集であること。「つかむ」、「身につける・考える」、「まとめる・振り返る」という構成をとっていること。それから、巻末に資料の展覧一覧として掲載したデータの大本を明記している点が、根拠を基に更に学習を深めることが期待できると思いました。これは先生方の教材研究にも役立つと感じた次第でございます。私からは以上です。

ほかにご意見やご質問等ございますか。よろしいですか。

それでは保健体育については、意見が分かれたところもありますけれども、原案どおり大修館書店を採択するということにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) 技術・家庭、技術分野について説明をお願いいたします。

○統括指導主事(吉田周平君) 技術・家庭科、技術分野につきましてご報告いたします。教科書の発行者は3社となります。体験的な学習が重視されており、ユニバーサルデザイン的な見やすさだけでなく、体験的な学習のポイントなどの補足説明の記載を充実させている。生徒たちの作業段階に合わせて、個人個人が学習しやすいように内容が構成されている。また、日本の伝統文化の継承を意識している教科書もあるとの報告がございました。技術分野については以上です。ご審議のほどよろしくをお願いいたします。

○教育長(浅沼昭夫君) 説明が終わりました。日野委員、ご意見をお願いいたします。

○委員(日野佳昭君) 技術は1番に開隆堂、2番目に東京書籍を推薦します。

どちらの教科書もわかりやすく、読みやすくできており、大きな差はありません。開隆堂は写真がきれいで見やすく、道具の使い方も詳しく、各領域からの先輩のメッセージもあり、こちらを推薦します。2番目とした東京書籍も、道具の使い方が詳しく、資料が多くわかりやすいと思いました。以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) 平原委員、お願いいたします。

○委員(平原 保君) 私は第一に東京書籍、第二に開隆堂を推薦します。

東京書籍については、以下4点から推薦しました。

第1編の「材料と加工の技術」では、生徒の身の回りに使用されている技術がわかりやすく紹介されています。また、材料の特性や利用例、材料に適した加工法など、鮮明な写真やイラストなどを用いて、理解の促進や技能の向上につながると期待できます。第2編「生物育成の技術」では、栽培カレンダーが見やすく、問題解決例として地域の特性や学校の実情に即した野菜や花の栽培活動について豊富に掲載されており、取捨選択して活用できると思えます。第3編「エネルギー変換の技術」では、家電製品から宇宙開発まで幅広い製品の技術を紹介しており、技術の見方・考え方を働かせながら、エネルギー変換の技術について考えられるように工夫されています。第4編「情報の技術」では、情報技術が生活や社会に変

化をもたらしたことや、情報化社会の特性や安全性について考え、情報モラルの大切さについて理解できるように構成されています。

開隆堂については、以下の4点です。

第一に、各編の冒頭に各技術の歴史が年表に記述され、生徒が時間軸から技術の進化を捉えることができます。第二に、第1編「材料と加工の技術」では、木材の特徴や加工の技術について鮮明な写真、写実的なイラスト、そして顕微鏡図も用いてわかりやすく説明されています。また、木材の特性や利用例、加工方法なども写真やイラスト、マトリックスなどを用いて端的に表現されています。3点目ですが、第2編の「生物育成の技術」では、実習例が詳細に説明されていて、学校での栽培活動の手引きとして有効に活用できると考えました。4点目に、第3編「エネルギー変換の技術」では、電気の利用や運動の利用について、身近にある製品や道具を取り上げ、仕組みや特徴をわかりやすく説明されています。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 私は、技術分野は第一が東京書籍、第二が教育図書です。

理由ですが、まず第一の東京書籍は、単元の最初のページや各所に小中学校のどの学年のどの教科と関連があるか記載されているのがよかったです。また、Dマークで資料を見ると、一度開けば全てのコンテンツが見られるところが便利でした。

次に教育図書です。字が大きく読みやすく、重要な文言は色づけや太文字など強調されていてわかりやすいところがよく、参考資料表記も一目でわかりやすかったです。あと、別冊になっている「技術ハンドブック」が使いやすそうだと思います。巻末にある「先輩からのメッセージ」は、技術系専門高校について知ることができるところがよいと感じました。

○教育長（浅沼昭夫君） 増渕委員、お願いいたします。

○委員（増渕達夫君） 技術分野、第一候補は教育図書、第二候補は開隆堂としました。

今回の指導要領は、小学校でのプログラミング教室の成果を生かして発展させる、そういった観点から、情報セキュリティも含めたネットワークですとかデータの活用、プログラミング、こういったことの重視が大きな特徴と考えています。

情報の技術に関する記述が多い教科書は、教育出版、開隆堂、東京書籍の順だという理解をしました。教育出版の教科書ですが、「つくって・育てて学ぼう」「じっくり学ぼう」「学びを深め生かそう」という学習の段階が明確に示されているところが特徴かなと思いました。それから開隆堂ですが、先ほどもご指摘がありましたが、各章の扉に小学校との関連、それから中学校他教科との関連が示されていて、カリキュラムマネジメントへの編集上の工夫があると思いました。

以上から、第一候補は教育図書、第二候補は開隆堂としました。

○教育長（浅沼昭夫君） 最後に私から意見を申しあげます。私は、技術分野は開隆堂、次に東京書籍を選びたいと思いました。

その理由ですが、開隆堂は文字・写真・図版の配置構成が見やすく整理され、極めてわかりやすい。QRコードがページ右下に配置され、制作技術工程が動画等で示され、他社に比べて豊富で充実しているということ。それからページの下欄外に豆知識ということで、関連事項がさりげなく書いてあり、興味を引く、高める工夫があるなという点から、技術分野では開隆堂を推したいと思います。

ほかにご意見やご質問ございますか。よろしいですか。

それでは技術分野なのですけれども、分かれた感がありますが、技術・家庭、技術分野については、全般的に見て評価の高い、原案どおり開隆堂出版を採択することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) それでは続きまして、技術・家庭の家庭分野について説明をお願いいたします。

○統括指導主事(吉田周平君) 技術・家庭科、家庭科分野につきましてご報告いたします。教科書の発行者は3社となります。各社とも見やすく、読みやすい表現や、SDGsを意識した内容構成となっております。題材ごとのデジタルコンテンツが充実しており、デジタルコンテンツを活用することにより、見通しをもって生徒たちが学習できるように工夫されているとの報告がございました。

家庭分野については以上です。ご審議のほどよろしく願いいたします。

○教育長(浅沼昭夫君) 説明が終わりました。日野委員、ご意見をお願いいたします。

○委員(日野佳昭君) 家庭は1番に開隆堂出版、2番目に東京書籍を推薦します。

ともに図、写真、イラストなどを使用し、手順がわかりやすく記載されている。その中で開隆堂は、色彩写真など見やすい。また、防災教育があるため、1番に開隆堂を推薦します。

○教育長(浅沼昭夫君) 平原委員、お願いいたします。

○委員(平原 保君) 私は第一に開隆堂、第二に東京書籍を推薦します。

開隆堂については、大きく以下4点から推薦します。

「自立と共生」をキーワードとして、課題意識をもって家庭学習に取り組めるということが第一に挙げられます。第二に、「家族・家庭生活」の導入として提示されている手形・足形や、「今の自分とこれまで」のイラストなどは、時間軸の視点から、生徒自身の生活を見直していく効果的な資料提示です。また、幼児との関わりや家庭生活と地域での活動、高齢者に関する内容配列は、空間的な広がりのある学習ができるよう構成されています。第三に、「衣食住の生活」において、様々な配慮や工夫がされています。例えば「食生活」では、食習慣と健康、栄養と発達などについての理解促進。「衣生活」については、衣服の働きや自分の個性を楽しむ衣服、和服の文化などについての目的に応じた衣服の選択。「住生活」では、幼児や高齢者、安全対策、防犯・防火対策、自然災害の備えなど、課題意識をもって取り組んでいけるように構成されています。4点目に「消費社会・環境」では、消費生活の仕組みや購入方法などについて知識を学ぶとともに、低年齢化する消費者被害について知り、未然防止への意識が高められるように工夫されています。

続いて東京書籍については、学習内容の興味関心を高めたり、内容を概観して見通しをもって学習に取り組んだりできるように工夫されています。そして、食生活については、年度当初に学習する指導計画があり、小学校家庭科での学習と関連して、生徒が興味をもって学習できるよう豊富な資料が掲載されています。また、衣服については、イラストを豊富に用いて衣服の働きや色の組み合わせ等、イメージなどについて理解されるように工夫されています。また、快適な室内環境や安全対策、自然災害への備えなども工夫されているところから推薦しました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 家庭分野ですが、第一は、私は教育図書です。第二に東京書籍を推薦します。

まず教育図書ですが、字が大きく読みやすく、重要な文言は色づけや太文字など強調されており、わかりやすいところがよかったです。また、家にある食材で作れるような料理が多数紹介されているところ、安全面や衛生面についての注意点が各所に記載されているところ、災害時に衣食住について役立つ資料が掲載されているところがよかったです。また、食品群の表で、必要摂取量をどの食材でどのくらい摂取できるのかわかりやすく、食材が多く紹介されているところもよかったです。調理実習例の材料に食品群が表記されているところがよかったです。あと、各章の最初に自立度チェックがついているところ、こちら中学生の自分自身の今の状況を確認するには大変よいと思いました。

次に東京書籍です。各章の小学校で学んできたこととの関係性が、視覚的にわかりやすくよかったです。また、巻末付録に「防災・減災手帳」がついているのがよいと思いました。あと、Dマークで資料を見ると、全てのコンテンツが見られるところが便利でした。

○教育長（浅沼昭夫君） 増淵委員、お願いいたします。

○委員（増淵達夫君） 私は、家庭分野は開隆堂を第一候補、第二候補は東京書籍としました。

指導要領の主な改訂点として、高齢者など地域の人々と協働することに関する内容、これが新たに設けられています。それから、計画的な金銭管理や消費者被害、これに対する対応に関する内容も新たに設けられています。

こうした観点から教科書を分析すると、まず高齢者と協働の問題ですけれども、開隆堂については、地域参加している高齢者の存在を紹介するとともに、簡単な介助方法などが紹介されています。また、子どもと高齢者との関わりなどが具体的な事例で紹介されていました。

東京書籍については、高齢者の社会参加についてプロスキーヤーの三浦雄一郎さんなどを事例として取り上げるとともに、介助方法や声のかけ方などが掲載されていました。また、中学生が地域でできることは何か、こういったことを考えさせるような、そういったことも示されていました。それから、消費生活や環境について、この取扱いは教育図書、開隆堂、東京書籍の順番で充実していると思いました。

こういったことをトータルして、学習の目標と学習課題が大きく示されていて、学習を焦点化しやすい編集になっているという観点から、開隆堂を第一候補にし、東京書籍を第二候補としました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 最後に私からですが、2社を比べてみまして、技術分野と同じように文字や写真・図版の配置構成がわかりやすいということや、QRコードに関して動画等が充実しているという点。それから、技術分野と同じ出版社がいいのではないかという理由から、開隆堂を採択したいと考えます。私からは以上です。

ほかにご意見やご質問ございますか。よろしいですか。

それでは技術・家庭、家庭分野については、原案どおり開隆堂出版を採択するということにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて外国語、英語について説明をお願いいたします。

○統括指導主事（吉田周平君） 外国語、英語につきましてご報告いたします。教科書の発行者は6社となります。各社ともに、小学校において学習した英語を意識して、中学校1年生のスタート段階での導入を工夫している。子どもたちの実践的コミュニケーション能力の育成を図る内容が充実している。特にスピーキング、リスニングについては、二次元コードを取り入れながら、デジタルコンテンツを通して学習できるようになっているところが特徴となっているとの報告がございました。

英語については以上となります。ご審議のほどよろしくをお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。日野委員、お願いいたします。

○委員（日野佳昭君） 英語は1番目に教育出版を推薦します。2番目は光村図書です。

教育出版は、年間を通して順序立てて課題をこなしています。巻末の「Active Plus」は、自分で学習し、話す力をつける構成がよいと思います。文法がわかりやすい。単元の最後にディベートの単元まで行くのがよいと思いました。

光村図書は、各単元の目標がリッスン、スピーク、ライトと全体の構成が理解しやすくなっています。文法も丁寧に記載されています。「You can do it」を単元後に挟んで、リスニング、スピーキングの練習ができるところが特徴です。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 私は第一に開隆堂、第二に光村図書を推薦します。

開隆堂については、以下6点から推薦しました。

1点目、第一学年では、小中接続単元において小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動が設定されています。2点目、各単元の初めに「Scenes」として、漫画の台詞形式にして学習内容が捉えやすいように工夫されています。また、新出文法が会話表現の中に取り入れられ、生徒にとってわかりやすいと思います。3点目、本文を通して学んだことを用いて、簡単な語句や文を用いて伝え合う活動を行う構成になっていて、表現力を高められると期待できます。4点目、各学年で扱う内容が、文化・スポーツ、歴史上の人物や出来事、環境問題、平和学習など、いずれも生徒が興味関心をもって取り組み、探究心を高めながら英語を学んでいけると考えました。5点目、巻末資料が充実しており、振り返りや基礎基本の定着のために活用できます。また、アクションカードは様々な学習活動に活用することで、生徒が意欲的に学ぶことができます。6点目、ページ右上に二次元コードがあり、音声教材を利用することができます。

光村図書については、以下5点から推薦しました。

1点目、ストーリーの主な登場人物が、中学生として生活や学習の中でコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて英語で情報や考え方を表現したり、伝え合ったりする姿に生徒が共感したり、自身を見つめたりしながら英語学習を進められると考えました。2点目、身近な生活問題や社会的な問題について、レジ袋と環境問題、広島への修学旅行と平和学習、防災訓練、世界と日本の文化など、生徒の発達や興味関心に即して適切な題材を効果的に取り上げています。生徒が自分の思いや願いについて英語で表現したり、伝え合ったりしようとする意欲が高まると期待できます。3点目、1学年では小中接続単元において、小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動が設定されています。また、ユニット3までは

本文を漫画の台詞形式にして、1年生が徐々に文字に慣れていくよう構成されています。4点目、第3学年のまとめには、外国からの転入生が日本における3年間の中学校生活を振り返るスピーチや、日本を旅立っていくシーンがあり、数年後の再会シーンで締めくくられています。こうした構成により、中学生が学んだことや感じたことなどについて英語で表現したり、伝え合ったりするよう工夫されています。5点目、デジタルコンテンツも充実しており、活用して充実した学習が進められると期待できます。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 外国語は第一が三省堂、第二に光村図書です。

理由ですが、三省堂は見やすく、身近な内容が題材となっていることが多く、よいと思いました。また、巻末に何ができるようになったか確認できるチェックリストがあり、また、会話表現やロールプレイシートで会話のトレーニングができるところがよいと思いました。

次に光村図書です。デジタルコンテンツが充実しているところがよかったです。柔らかい色遣いのイラストや写真を多用し、場面を想像しながら学べるところがよいと感じました。また、府中市は小学校が光村図書を、英語で採用しているところもあり、小学校から違和感なくスムーズに中学校の授業になじめるのではないかと思います。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 増淵委員、お願いいたします。

○委員（増淵達夫君） 私は、英語は、第一候補は開隆堂、第二候補は啓林館としました。

学習指導要領の主な改訂点ですけれども、互いの考えや気持ちなどを伝え合う対話的な言語活動を一層重視するという観点から、話すことについて「やり取り」という領域が新たに設定されています。そして、言語の使用場面にある言語の働きかけを適切に取り上げて、語や文法事項などの言語材料と言語活動とを効果的に関連づけて指導することなどについての改善が図られています。それから全国学力・学習状況調査、平成31年度の調査では、当時の中学校3年生は、与えられた情報に基づいて説明する英語を書くこと、これに課題が見られる。それから、情報に基づいて三人称単数・現在形の肯定文を正確に書くこと、この指導が必要だということで、書くことについての課題が指摘されていました。

こういった観点から教科書を分析すると、「やり取り」の活動数の割合が多く掲載されている教科書、これは開隆堂、啓林館、三省堂の順かなと思いました。それから、「話すこと」について、このうちの「やり取り」と「発表」の活動数を合わせると、啓林館、開隆堂、東京書籍の順番になるだろうと思います。それから、書くことについての活動数ですが、これは東京書籍、開隆堂、三省堂の順番かなと思います。

こういった観点で教科書を見てみると、開隆堂については、「Scenes」、これは英語のやり取りの漫画から入って「Think」「Retell」「Interact」と進むなど、コミュニケーション場面を漫画で具体化して活用まで踏み込むような、そういう編集上の工夫がされていました。

それから啓林館は、「自己紹介をしよう」とか、「友達にインタビューしよう」、「日記を書こう」というように、日常場面での英語のやり取りができるような、そういった編集上の工夫がされているかなと思いました。

以上の観点から、開隆堂を第一候補、啓林館を第二候補としました。

○教育長（浅沼昭夫君） 最後に私の意見を申しあげます。6社の中から光村図書を採用し

たいと思います。

前回の採択で教科書が変わったわけですが、当初は使い慣れていないことから、十分に特徴を生かすことができなかつたが、使うにつれてそのよさに気づいたという声もあります。教科書が変わることによって、指導法やワークシートの作成などの授業改善につながり、指導力向上につながることが期待できますけれども、一方では、実務を通しての経験の活用というのも大切と思い、引き続き光村図書を採用したいと考えました。2つ目は、場面設定が現実的ですね。教材などの工夫などにより、スピーキングへの意欲づけがあるということ。それから特徴としては、これは大きな特徴だと思いますけれども、ユニットごとにQRコードがありまして、それに基づいた発音、それから会話動画など、これは子どもたちにとって、生徒にとって、予習や復習などの家庭学習にも十分適しているのかなと思い、光村図書を推薦します。

ほかにご意見やご質問ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは外国語、英語ですが、これも意見が分かれましたが、原案どおり光村図書出版を採択するということにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○**教育長(浅沼昭夫君)** 続いて、道徳についての説明をお願いいたします。

○**統括指導主事(吉田周平君)** 道徳科につきましてご報告いたします。教科書の発行者は7社となります。各社とも今日的な課題を多く取り入れ、生徒の興味関心を引きやすい内容を取り上げている。特色としては、別冊ノートを用意するなど工夫しているところや、生徒が自己評価により、学習の成果を振り返ることができるようにするために、各社で様々な工夫が施されているとの報告がございました。道徳科については以上です。ご審議のほどよろしくをお願いいたします。

○**教育長(浅沼昭夫君)** 説明が終わりました。日野委員、ご意見をお願いいたします。

○**委員(日野佳昭君)** 道徳は1番に東京書籍、2番目に教育出版を推薦します。

各社、各教科書ともに、各教材の最後に発問例を示し、学ぶ定義を示しております。内容はどの教科書もいいと思えました。その中で東京書籍と教育出版は、いじめや命についての教材が多く記載されています。中学でもいじめの問題をよく考え、議論していただけるとよいと思えました。以上です。

○**教育長(浅沼昭夫君)** 平原委員、お願いいたします。

○**委員(平原 保君)** 私は第一に日本文教出版、第二に光村図書を推薦します。

初めに日本文教出版について、以下5点から推薦しました。

この教科書は目次とは別にテーマごとの題材が整理されていて、生徒が課題意識をもって学び、自己を見つめ、人間としての生き方について考えを深められるように工夫されています。また、教師が生徒の実態に応じて意図的、計画的に指導しやすいと考えました。2点目、各学年においてテーマ「いじめ」と向き合うについて重点化されており、多くの題材が配列されています。この教科書には、いじめ問題の解決に向けて、道徳科の授業で重点的に取り組んでいく大きなメッセージが込められていると感じました。3点目、プラットフォームではいじめの背景や状況、いじめの構造、人権課題の取組等について、学習内容を他教科や活動とつなげて視野を広げるコラムを掲載しています。学校や生徒の実態に即して、適宜扱う

ことができるように配慮されています。4点目、テーマ「情報モラル」の題材を取り上げることで、情報発信の重要性を踏まえ、よりよい情報化社会を目指して、情報モラルとネットいじめについて考える機会が与えられています。5点目、二次元コードから題材に関連する各種資料や映像、動画にアクセスして活用することができます。

続いて、光村図書についてです。以下5点から推薦しました。

1点目、重要課題であるいじめ問題に関する題材が、各学年の発達段階に即して数多く掲載されています。2点目、「情報モラル」の題材を取り上げており、インターネットでの情報発信の重要性や、よりよい情報化社会について、情報モラルとネットいじめについて考える機会を与えています。3点目、ほかのテーマについても、生徒が自己を見つめ、広い視野から考え、人間としての生き方について考えを深められるような題材が豊富に掲載されています。4点目、巻頭に道徳の学び方「どうやって学ぶの」「なぜ学ぶの」「なぜ一緒に学ぶの」が示してあり、巻末には「道徳の学びを振り返ろう」があり、1年間の学習を振り返り、自己の変化を見つめられるようになっていきます。5点目、二次元コードから題材に関する豊富なコンテンツを活用することができます。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 私は、道徳は第一があかつき、第二が光村図書です。

まず第一のあかつきですが、教科書が開きやすく、使いやすいと思いました。それから、中学生が興味をもって考えるのによい題材が多いのがよかったです。文科省発行の「私たちの道徳」に掲載されていた教材が多いとのことで、これまでの授業経験を生かしつつ、より深い学びへとつなげる授業ができるのではないかと期待できると思いました。次に、付録の「道徳ノート」は授業でも使いやすいそうであり、生徒が振り返りができるのがよいのではないかと思います。

次に光村図書です。各内容の終わりに「考えよう」「見方を変えて」「つなげよう」があり、多角的・多面的に思考を広げることができるようになっていくところがよいと思いました。日本各地の伝統的なお祭りや文化継承が取り上げられているところもよかったです。また、それぞれの冒頭に二次元コードがあり、関係する資料などが見られるところがよかったです。

○教育長（浅沼昭夫君） 増淵委員、お願いいたします。

○委員（増淵達夫君） 私は前回からもう一回見直しをして、第一候補は光村、第二候補は廣済堂あかつきとしました。

今回の学習指導要領で特に、「特別の教科 道徳」となったときに、いくつかポイントがあると思うのですが、学年が上がるにつれて、単なる読み物の心情の理解だけではなく、善悪の問題も立場で見方が異なるということですか、思うようにならない複雑で困難な状況に遭遇したときにどう対応すべきかなどについて、多面的・批判的に考えさせたり、議論等をさせたりする、こういった授業を重視するということが求められていると理解をしています。それから、社会を構成する一員として主体的な生き方に関わる教育、いわゆるシティズンシップ教育の視点に立った指導も重要とされています。それから、より現代的で児童・生徒の実生活に即したテーマの素材や、特に小学校の高学年や中学校では、現在社会で顕在化している、例えば生命倫理とか情報倫理、環境問題などの多様な価値観が引き出せ、

考えを深めることができるような素材をもっと積極的に活用すべきである。こういった提言もあります。そして、今回の「特別の教科 道徳」の目標として、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、道徳的諸価値について理解を基に自分自身を見つめ、考えさせる。そういったようなことが示されています。

こういった観点から教科書を分析すると、情報モラルですとか、現代的な課題を扱っている教材数が多いのは、光村、日本文教出版、学研、こういった順番です。

それから、人物の生き方や考え方から学ぶものの教材に取り上げられている人物数が多い、これは学研、教育出版。学研が一番多くて、その後、教育出版、光村の教科書は同数です。

それから、中学校段階で生涯にわたって道徳的価値を探究しようとする基礎、これを形成する場合、高等学校における道徳教育の中核的な場面とする公民科との接続を考える必要があるかなと思っていて、古今東西の先哲の思想との対話を経験させるということも配慮すべきことなのではないかと思いました。

こうしたところで見ると、あかつきは各教材の後に「考える・話し合う」として、考えるべきテーマと複数の問いが置かれて、学習の水準の確保が図られています。同時に、各教材の最後に先哲の言葉が添えられています。生徒自身が道徳的価値を深く探究する手がかりとなる工夫が施されていると思いました。また、2年生ではマザー・テレサ、3年生でマンデラ、カント、ニーチェ、ルソー、ショーペンハウエル、こういった人たちが紹介されています。光村では1年生で貝原益軒、2年生で孟子と荀子、3年生で孔子が紹介されています。

それから「特別の教科 道徳」となった背景の1つに、いじめの問題の対応があります。あかつきは、巻末に「いじめを許さない 私たちの心」というページを設定して、教科書の教材を通して、いじめを多面的・多角的に考察できるようにしています。光村ですけど、教材の最後に発問例の「考えよう」が異なる視点から考察できるように、「見方を変えて」というのがあります。それから深く考えたり、他教科との関連を図ったりすることができるよう「つなげよう」というのが掲載されていて、道徳的価値を深める工夫が見られます。また、いじめ、スマートフォン、携帯電話の問題、規範意識などについて、「深めたいむ」という特設ページを設定して、深く考えることができるような編集上の工夫が見られると思います。

こういった編集上のところを比較考慮して、第一候補は光村、第二候補を廣済堂あかつきとしました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 最後に私の意見を申しあげます。7社の中から、引き続き光村図書を採択したいと思います。

読みやすい表現とともに、目当ての明示、教材の手引きなどにより学習過程が進めやすい。情報モラルでは現代的な課題を扱っている教材が充実しており、そのボリュームが1年生から3年生まで配慮されていた。3つ目が、学年ごとに目指す姿として内容項目と現代的な課題等の関わり、他教科領域との関わりが一覧表としてまとめられ、教育活動全体を通した道徳教育の理念が明確であるということ。それから最後に、社会を支える様々な職業人の扱いが豊富で、中学生的な発達段階に対応していると考え、光村図書を採択したいと思います。

ほかにご意見やご質問等ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは道徳については、原案どおり光村図書出版を採択するということにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) 次に進みます。

続いて最後、特別支援学級の教科用図書について説明をお願いいたします。

○統括指導主事(吉田周平君) 最後に小学校、中学校の特別支援学級の教科書についてご報告いたします。

学校教育法附則第9条により、特別支援学級では、検定教科書以外の図書の使用が認められており、特別支援学級では毎年採択替えができることから、小学校、中学校それぞれで調査研究のための委員会を組織し、検討してまいりました。

まず初めに、中学校特別支援学級の教科用図書についてご報告いたします。府中第一中学校、府中第二中学校及び府中第四中学校におきましては、全てが検定教科書を選定候補とするとの報告を受けております。そのため、全教科、全種目において、中学校で採択された教科書と同一の教科書を採択候補として挙げさせていただきます。

なお、検定本を使用する場合には、生徒の理解度や進度に差があるため、生徒の興味関心や学習の定着度を十分に配慮した補助資料などで活用し、個々の状況に合った学習指導を行うこととしております。

続きまして、小学校特別支援学級の使用図書につきましては、昨年度に引き続き、府中市の小学校において採択されている文部科学省の検定本、文部科学省発行の著作本、東京都教育委員会が作成している「特別支援教育教科書調査研究資料(学校教育法附則第9条第1項の規定による教科書(一般図書))」に掲載されている図書を併用して、採択候補とするこの報告を受けております。東京都教育委員会発行の「特別支援教育教科書調査研究資料」に記載されていない一般図書の希望は、各学校からは希望はございませんでしたので、併せてご報告いたします。

報告は以上となります。ご審議のほどよろしくをお願いいたします。

○教育長(浅沼昭夫君) 事務局の説明が終わりました。何かご質問ございますか。よろしいですか。

ご意見ございますか。よろしいですか。

それでは、特別支援学級の教科用図書について、「文部科学省検定済教科書」、「文部科学省著作教科書」及び「学校教育法附則第9条の規定による教科用図書(一般図書)」を採択するというご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) それではお諮りをいたします。

第42号議案「令和3年度使用教科用図書の採択」について、決定することに改めましてご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) 全員異議なしですので、原案どおり決定といたします。

それでは、これで令和2年第8回府中市教育委員会定例会を閉会といたします。ありがとうございました。



午後5時27分閉会

以上、会議のてん末を記載してその相違ないことを証
するため、ここに署名する。

令和2年12月17日

府中市教育委員会教育長

浅沼 昭夫

府中市教育委員会委員

平原 保